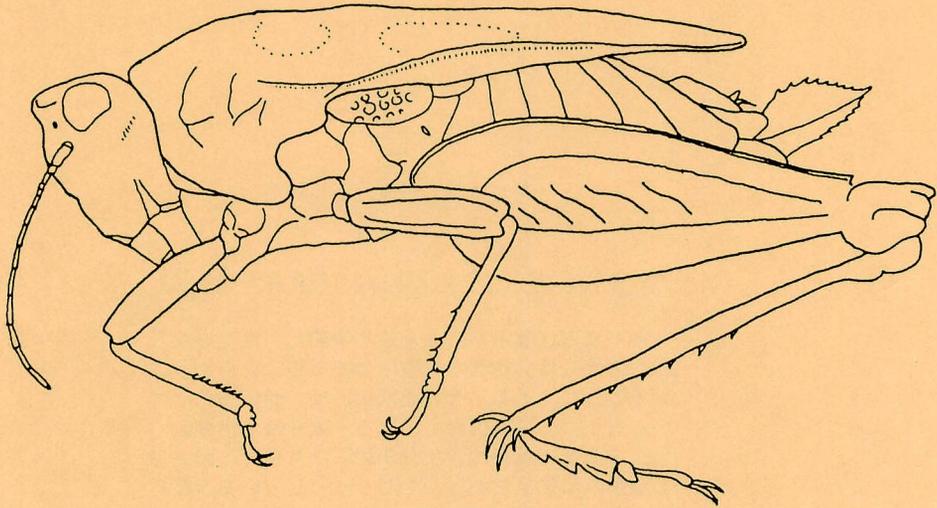
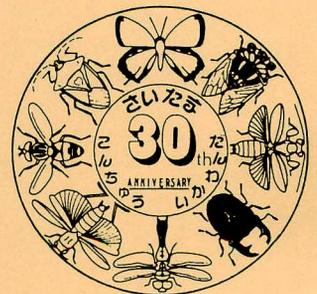


埼玉昆虫談話会

# 寄世蛾記 No.81



1996. Dec. 1.



「寄せ蛾記」表紙の図の説明

アカギヒシバッタ *Tetrix* sp. (群馬県赤城山産)

冬の埼玉は北風が吹き荒れる季節だ。県北の深谷市などからは、雄大な赤城山の姿を手にとるように見ることができる。その赤城山には、翅が退化しているヒシバッタが生息している。彼らは「赤城おろし」の冷たい風が吹き止む季節になるまで、おそらく幼虫のまま土中かどこかでじっとしているのだろう。

ただどひょっとしたら、暖かい日には表に出てきて、関東平野を見下ろしているのかもしれない。

表紙

図と説明 : 内田 正吉

デザイン : 小堀 文彦

ラクダムシとキバネツノトンボの記録

松本 克臣

鳩山町熊井において、埼玉県では記録の少ないラクダムシとキバネツノトンボを写真撮影により記録したので報告する。この発表にあたり、色々とお教え願いました牧林功氏に感謝いたします。

1. ラクダムシ *Inocellia japonica* Okamoto

鳩山町熊井：1♀ 1996. 6. 2

林縁のヌルデの葉上にいるのを見つけたが、図はその後、葉裏に静止したところ(図1)。この場所は谷戸の奥、石場沼の南に位置し、雑木林にスギが混在していた。本種は埼玉県では台地のみ記録されていて、県の危急種に指定されている\*。

2. キバネツノトンボ *Ascalaphus ramburi* MacLachlan

鳩山町熊井：1♀ 1996. 6. 8

石場沼の堰提の草に静止していた(図2)。本種は埼玉県では丘陵部にもみ僅かに生息するもので、県の絶滅危惧種に指定されている\*。

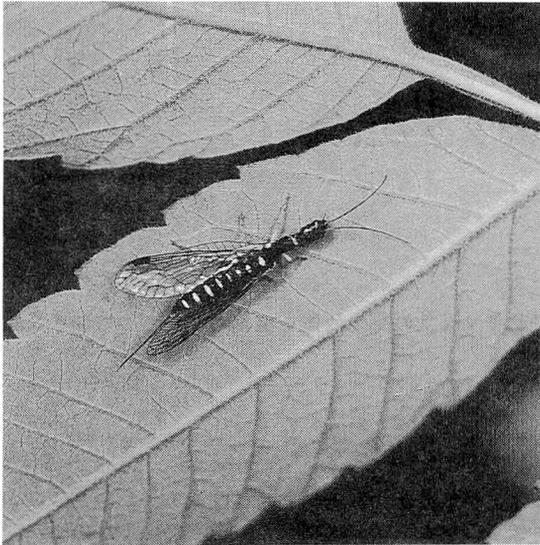


図1 ラクダムシ♀

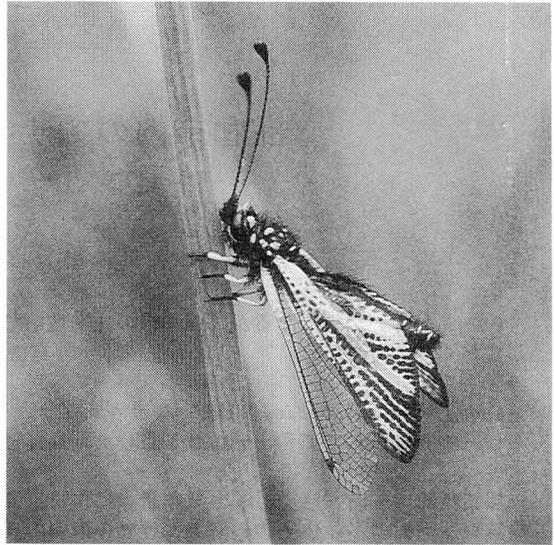


図2 キバネツノトンボ♀

引用文献 \*埼玉県環境部自然保護課 (1996) 埼玉県レッドデータブック, 埼玉県.

(まつもと かつおみ 〒350 川越市中原町2-19-1 パークファミリア911)

.....

## マメハンミョウの記録

橋本 良一

.....

ツチハンミョウ科のマメハンミョウ (*Epicauta gorhami* MARSEUL)は、局地的に多数の個体が一時に発生することで知られているが、浦和市内において1991年と1996年の2回、これを観察したので報告する。

1. 1991年8月11日 浦和市三室 宮後
2. 1996年9月16日 浦和市南部領辻

1の場所は、芝川と加田屋川の合流地に近い荒地で、その周辺は水田である。約10m四方の中に1000頭以上と思われる個体を目撃し、数頭を採集した。

2の場所は、1から北東方向に約300m離れた加田屋川右岸の水田の畦道で、約10m以内のうちに数百頭を目撃し、13頭を採集した。

1. 2のいずれにおいても通常の翅紋の個体の他に、上翅の縦条が消失している黒化型であるいわゆるクロマメハンミョウの個体も採集している。

(はしもと りょういち 〒336 浦和市原山2-26-3)

.....

## 浦和市内のアサギマダラの記録

橋本 良一

.....

いささか古い記事になるが、浦和市の住宅地内でアサギマダラの完全個体を採集しているので報告しておく。

*Caduga sita nipponica* MOORE アサギマダラ 1♂  
1991年8月11日 浦和市原山2丁目 採集者 橋本 良一

採集時間は午前10時少し前、気象状態は快晴、風は無いが気温は10月上旬としては低めであった。採集地は園樹の多い住宅地の庭で、建物の南側の日だまりで地上に翅を広げ日光浴をしているかのようであった。

なお、この日の前日は南の強い風が吹き、夕方になって風が止んで、明け方に気温が下がり冷え込んだのを記憶している。

(はしもと りょういち 〒336 浦和市原山2-26-3)

.....

## 本州のオオモンシロチョウ覚書

荒木 哲

.....

オオモンシロチョウ *Pieris brassicae* LINNE

筆者がこの蝶の事を初めて知ったのは、岩波文庫「ファーブル昆虫記第二十分冊」の「キャベツの青虫」の章である。

虫好きの少年が必ず一度は紐解くバイブルである(但し、その後全部を読むかどうかは別として)。しかし、最後にファーブルが書いたというこの章は、キャベツの起源や寄生蜂の話が中心で、肝心の蝶の話はわずかしき無く、当時蝶を集めていた筆者にとってはあまり興味を誘う章ではなかったようだ。

蛇足ではあるが、昆虫記には蝶や蛾の記述が少なく、オオクジャクガやカイコガ等と共にわずかしきない鱗翅目の話ではあったが、少年時代に読んだこの章はほとんど記憶に残っていない。

しかしまた、この中で「もんしろちょう」と訳されている種が、日本のモンシロチョウとは絶対に違う種類であるとは思っていた。卵が200個以上の卵塊で産まれる事や、幼虫が集団で生活する事等の記述からであるが、文中の学名がオオモンシロチョウと言う和名だと知ったのは、かなり後になってからである。

幼虫についてはただ「青虫」と記述されているが、訳者の山田吉彦としてはモンシロチョウの幼虫だから、ただの青虫だろうと単純に訳したに違いない。モンシロチョウの幼虫を見慣れている筆者としても、種は違っても緑色の幼虫を想像していた。まさか、エゾシロチョウやチョウセンシロチョウの幼虫に似た毛虫とは夢にも思っただけではなかった。

その後知り得た知識も以下の通り、わずかなものである。

地中海付近の原産で、全世界に分布を拡大しつつあり、今ではユーラシア大陸からアフリカ大陸、南北アメリカ大陸でも見られるという。

また日本周辺にも進出しており、最近では中国やロシア沿海州(注)でも普通に見られるらしい。

モンシロチョウより一回り以上大きく、飛翔力も非常に強く、渡りをする蝶で、地中海やドーバー海峡を集団で渡る話は有名である。

濃いオレンジ色の卵を、キャベツ等にまとめて50～100卵も産み付ける。

アブラナ科植物の大害虫で、農業関係者は今は最も日本国内に入れたくない害虫であろう。

以前、南米チリで農作物に壊滅的被害を与えた事件は、防疫関係者の間では有名な話らしい。

(注)クレンツォフ著の「極東のチョウ」(1970年刊行)では全く触れられていない。

しかし1995年以降のウラジオストク等での採集品にはかなり入っているようだ。

8月14日

久々の函館への里帰り(近すぎて年に数回しか帰らない)で、市内の蛾屋さんの猪子龍夫氏、小松利民氏と酒を酌み交わす。虫の話となると話は尽きない。

この時、オオモンシロチョウ(以下オオモンシロと省略)が道内の小樽市や松前町等で採集され、北海道新聞に掲載もされていると聞き、17年前の後悔が頭の片隅をよぎった。

道内でチョウセンシロチョウが採集された年である。

当時は苫小牧市に住み、まだ独身で若かったせいもあり、新聞記事を見たその足で発見された深川市へ車を走らせた。

9月だというのに暑い日続きで、石狩川の河川敷はモンキチョウしか採れず、結局1頭も採れないまま過ごした二日間は何か昨日のように覚えている。

翌週には蘭越町でも採れていると聞いたが、「なーんにも」いない河川敷に行くこと自体が苦痛

に感じられて、その年は怠慢にもネットをしまったのである。

どうせ翌年も沢山発生しそうだし、と「今日できる事も明日にしよう」の根性が、今でもチョウセンシロチョウを標本箱に欠いている原因なのであろうか。

それにしても、オオモンシロが松前半島で採れているとすると、対岸の津軽半島や下北半島にも飛来している可能性も高く、酒の勢いを借り、下北半島で採ると声高らかに宣言。

8月16日 下北郡大間町材木(ざいもく)、大間牧場、同郡風間浦村菅ノ尻(すがのしり)

折りからの台風でフェリーが欠航し、予定を一日遅れて下北に帰る。

有名なカバイロシジミの産地である下北半島の西海岸にターゲットを絞った。

しかし、いざ来てみると松前半島で採集されてはいるものの、津軽半島ならまだしも、下北半島では相当厳しいだろうと一人決めをして、ネットは持たなかったのである。

今考えると、飛んでいる個体を目で追うだけでは本種を探すのは無理があるようである。

モンシロチョウ(以下モンシロと省略)の成虫を確認はするが、オオモンシロは確認できず。

菅ノ尻の橋の下のたまりで、近くの畑で採った青虫を餌に、イワナの20cmクラスを8匹釣りあげ帰宅。

8月17日 むつ市関根(せきね)、高梨(たかなし)

数頭のモンシロを確認するがオオモンシロは確認できず。

畑(2ヶ所)のキャベツ及びダイコンから幼虫、蛹を数頭採集するが全てモンシロ。

その青虫を使い、近くの葉研溪谷(やげんけいこく)でヤマベの18cmクラスを4匹釣って帰宅。

同日 (猪子氏からの情報)

道南の江差町と上ノ国町で、かなりの数の成虫が採集されているらしい。

同日 (苫小牧市の神田正五氏からの情報)

熊石町(渡島半島)で成虫と幼虫を採集している。

小樽市周辺でも沢山採れているらしい。

8月22日 (東奥日報 記事)(別紙1, 参照)

「小泊・葭内(ほろない)で捕獲」「本州上陸を初確認 地中海原産 大陸から飛来?」  
青森県津軽半島の竜飛崎(北津軽郡小泊村)でオオモンシロが採集された事を1面で掲載。  
青森県では22日現地調査をして対策を協議。

本州初記録となるオオモンシロ1♀と、モンシロ1♀の成虫のカラー写真も掲載。

8月24日 (東奥日報 記事)(別紙2, 参照)

「オオモンシロチョウの幼虫」「下北半島にも調査拡大」

オオモンシロの幼虫のカラー写真(図鑑より転写)を載せ、北海道の情報も掲載。

青森県は今回発見された津軽半島の他、下北半島等にも範囲を拡げて調査継続。

北海道病害虫防除所では、北海道の個体は輸入野菜に付着しての侵入ではなく、大陸方面からの飛来と推測。

8月25日 むつ市城ヶ沢(じょうがさわ)、泉沢(いずみさわ)

数頭のモンシロを目撃するがオオモンシロは確認できず。

キャベツ畑(2ヶ所)の幼虫も数頭採集するが全てモンシロ。

泉沢の川で、やはり青虫を使い、ヤマベ18cm、イワナ16cmを釣る。

溪流釣りは「キャベツの青虫」が非常に良く釣れる。(何よりもただなのが良い)

8月27日 (東奥日報 記事)(別紙3, 参照)

「風間浦で採集した幼虫4匹、オオモンシロチョウか」

下北半島の風間浦村易国間で、本州で初めて幼虫がキャベツから採集され、幼虫のカラー写真も

## 掲載。

同日 　　むつ市関根　　モンシロ11♂3♀、スジグロシロチョウ（以下スジグロと省略）1♀採集。  
今回はネットを持ち、三角ケースもしっかり腰に下げ、蝶屋に変身して挑戦。  
畑（2ヶ所）のキャベツでの幼虫、蛹は全てモンシロ。

同日 　　下北郡大畑町二枚橋（にまいばし）　　モンシロ13♂1♀採集。  
畑（2ヶ所）のキャベツでの幼虫はこれまたモンシロのみ。

同日 　　風間浦村桑畑（くわはた）　　モンシロ9♂2♀、スジグロ1♂1♀、エゾスジグロシロ  
チョウ  
（以下エゾスジグロと省略）1♂採集。  
畑（4ヶ所）のキャベツでの幼虫、蛹は全てモンシロ。

同日 　　同村易国間（いこくま）　　オオモンシロ1♂1♀、モンシロ13♂1♀、スジグロ1♂9  
♀採集  
易国間川の右岸側の民家周辺を中心に調査開始。  
オオモンシロの最初の個体は♀で、緩やかな飛び方で、民家の庭先のタンポポに吸蜜にきたところを採集した。  
さすがに三角紙に包む時、手が震える。  
♂は畑に近づいてきた個体で、飛び方は素早く、タテハチョウ科の飛び方に近いように感じられた。  
新聞で紹介された易国間小学校のキャベツは、3株共、網目状にひどく被害されており、この食跡は今後オオモンシロの生息調査の目安になりそうである。  
小学校のコンクリートの壁及び天井で、オオモンシロの蛹2個体（1個体のみ採取）、羽化した蛹殻5個体、アオムシコマユバチ（と思われる）に寄生され死亡した幼虫1個体、原因不明で黒ずんで死亡した蛹1個体も併せて確認する。  
オオモンシロの蛹はモンシロの蛹に比べ、一回り以上大きく（体長25.8mm）、体色はクリーム色で、体表全体に小さな黒紋を備えている。  
他に町内（5ヶ所）のキャベツ畑でも確認したが幼虫、蛹は全てモンシロ。  
飛んでいる白い蝶は全てネットに入れてみるが、大きく感じられるものはほとんどスジグロである。

同日 　　大間町奥戸　　館ノ上（おこっぺ たてのうえ）　　モンシロ11♂1♀採集。  
中学校のグラウンドの奥の畑にて調査。  
オオモンシロの成虫は採れず、確認できたのは全てモンシロ、スジグロのみ。  
キャベツでの幼虫、蛹は全てモンシロ。

同日 　　同町大間牧場　　モンシロ3♂1♀、ヒメシロチョウ2♂採集。  
畑にカモシカ除けの柵があって中に入れず、キャベツがあるも幼虫は確認できず。

8月27日　（猪子氏、小松氏からの情報）  
江差町で複数のみを採集できた。  
成虫のいる環境や飛び方がモンシロと違うようだが、探ってみないと判らない。

同日 　　（神田氏からの情報）  
幼虫を飼育しているが、多湿を非常に嫌い、密閉した容器ではすぐ死亡してしまう。  
採れた環境は小さな畑がほとんどで、無農薬菜園や家庭菜園等で見つかる。  
大規模なキャベツ畑やダイコン畑には、まだ侵入していないようだ。

8月28日（読売新聞 記事）（別紙4，参照）

「生息分布広がる」「県、防除指導徹底へ」

東津軽郡三厩村の竜飛崎（たっぴざき）で8月7日に成虫1♂が採集（本州初記録）されていた情報。

同日（東奥日報 記事）（別紙5，参照）

「風間浦の幼虫は”クロ”」「幼虫らしい虫 大間でも発見」

27日の新聞記事の幼虫がオオモンシロであると、横浜植物防疫所で断定。

一方、同じ下北半島の隣町、大間町でネワサビ（栽培種）から、オオモンシロらしい幼虫が見つかり、食害情況と共に幼虫がカラー写真で掲載。

青森県では、弘前市、三沢市等7市町村（24地点）で成虫226匹、幼虫108匹を採集して確認したが、全てモンシロと同定。

8月29日（東奥日報 記事）（別紙6，参照）

「成虫、サナギ採捕 風間浦 むつの昆虫研究家」「大根畑で食害 北海道」

筆者の採集したオオモンシロの♂♀、モンシロの♂♀の比較カラー写真（本州産オオモンシロ♂の写真は初めて掲載）と、本州で初めて蛹も採集された事を報告。

また北海道の大根畑の被害や、岩内町で多数の成虫が採集されている事、稚内市で成虫が確認された事を紹介。

同日（札幌市の川田光政氏からの情報）

北海道で最初に発見したのは、同会の若手の会員で、「モンシロにしては生息環境も飛び方も違うような感じだったので採集した。」との弁。

「翅表の斑紋も変だ」という事で、私のところに持ち込んできた為、同定したところ、オオモンシロであることが判明した。

採集地は札幌と小樽の境界の林道の終点付近で、深山性の昆虫が生息するような環境であり、人工的な環境を好むモンシロを見かける事は稀である。

その後、小樽市等で採集されてきたが、しばらくは林道の奥のようなモンシロのいない環境でしか見られなかった。

しかし最近では、岩内町や札幌市内でも、ダイコン畑や市街地の小規模な家庭菜園のような環境に侵入しているようだ。

幼虫を飼っていると蒸れに弱く、ずいぶん簡単に死んでいく。

飛翔がモンシロに比べ、ゆったりとしており、大人風な落ちつきがある反面、一度振り逃がすと非常に素早く、飛翔力がかなり強い事をうかがわせる蝶である。

未確認だが、1995年にも採集されていたらしく、北海道で越冬した可能性が高い。

8月31日（東奥日報 記事）（別紙7，参照）

「病害虫・オオモンシロチョウ」「県が一斉調査」「2日までに結果まとめ」

青森県が30日、県内全市町村の畑を巡回調査。

結果は9月2日までにまとめ、「特殊報」を出す方針を報道。

同日 風間浦村下風呂（しもふろ）

民家の庭先や畑（3ヶ所）で探索するも、モンシロがわずかに見つかったのみ。

同日 同村易国間 モンシロ5♂1♀、スジグロ4♀採集。

民家の庭先付近や畑の周辺（2ヶ所）で探索するもモンシロのみ。

易国間小学校の庭の周辺を再度広い範囲で探索するも、幼虫、蛹共に採集できず。

小学校周辺の畑に、無農薬栽培のキャベツが5株あり、かなり多くの幼虫に喰い荒らされた痕跡を確認するが、卵、幼虫、蛹及び成虫は確認できなかった。

同日 大間町奥戸 向町(むかいまち)

国道沿の民家の庭、畑(2ヶ所)でキャベツを中心に、ハクサイ、カブ、ダイコンを調査するも幼虫、蛹はモンシロのみで、オオモンシロは確認できず。

同日 同町奥戸 館の上 モンシロ3匹、スジグロ1♀採集。

27日にも調査をした中学校グラウンドの奥の畑にて再度調査。

成虫は確認できたものは全てモンシロ、スジグロのみ。

手入れがされているキャベツ、ダイコン、カブではオオモンシロの幼虫は確認できず。

畑の角であまり手をかけていないと思われるキャベツ1株より、オオモンシロの2~3齢幼虫(体長16~18mm前後)を約60頭確認、採取。

ネフサビから幼虫が採れた民家の庭も調査。

雨が降ってきた為、成虫が飛ばず、オオモンシロの幼虫はアオムシコマユバチ(と思われる)に寄生され、繭が付いている1個体のみ確認。

付近の民家の庭、畑(2ヶ所)でキャベツ、ダイコン等を調査するも、モンシロ幼虫のみで、オオモンシロは確認できず。

幼虫は持ち帰る時にポリ袋等の密閉容器は不可の為、風通しの良い古いネットの中に入れて持ち帰る。しかも雨が降って湿度が高いので、自動車のエアコンはかけっぱなしである。

同日 下北郡佐井村矢越(やこし)、磯谷(いそや)、長後(ちようご)

雨で成虫は全く飛ばず、キャベツ等での幼虫探し。

民家の庭、畑で調査するもモンシロ幼虫のみ。

合羽を着ての調査にも飽きたので、釣竿に持替えて、モンシロ幼虫の出番となる。

長後の川で17~21cmクラスの「紅腹イワナ」を11匹、今日は風呂あがりのビールと塩焼きが旨い。

9月2日 むつ市本町

16時頃、雨上がりでやや蒸し暑く感じられたが、ホテル横の駐車場の中でオオモンシロを目撃。

地上から一定の高さを、かなり緩やかに飛翔していた。

近くに寄ってきたので、斑紋からオオモンシロの♀と確認できた。

市街地の西側からきて、東側に飛び去っていった。

同日 (青森朝日放送のテレビニュース)

21時のニュースでむつ市等でも幼虫、蛹が採取されたと報道。

9月3日 (易国間の蛹)

早朝、1♂羽化。

翅の裏面はかなり黄色味を帯び、緑色の複眼や頭部の毛と相俟って、一見するとColiasを思わせる。

同日 (東奥日報 記事) (別紙8, 参照)

「幼虫、サナギ50匹確認」「県の一斉調査の結果 全域に予察特殊報」

青森県農業技術課が、8月30日の一斉調査の結果をまとめた報告が中心の記事。

青森県内全市町村の一般栽培ほ場 190地点、家庭菜園 316地点で調査を行なった結果、オオモンシロの幼虫を小泊村鮫貝で4匹、むつ市川守町で2匹、大畑町釣屋浜で8匹、大間町奥戸、材木で35匹、また蛹を風間浦村易国間で1匹確認し、合計50匹確認。

この結果、青森県内では、県民より持ち込まれた幼虫14匹を含めて合計64匹を確認。

いずれも津軽、下北両半島で見つかっている事から、北海道方面からの飛来の可能性を指摘。

津軽、南部両病害虫防除所は、9月2日付で「病害虫発生予察特殊報」を出した。

同日 (読売新聞 記事) (別紙9, 参照)

「50個体採取」「オオモンシロチョウ 県が調査結果発表」

東奥日報とほぼ同じ内容の記事であるが、東奥日報では「サナギ」とされた個体が、「さなぎ殻」とされている点に相違が見られる。

ここで青森県の「発生状況についての発表」に対して一言

福田幸雄氏が最初に採集、発表した1♀や、安曇野蝶類研究所の研究員の採集した1♂、筆者の採集した1♂1♀と蛹1個体(♂が羽化)は、新聞に掲載されているにも拘らず、県の発表では上記の数には入っていないようである。

アマチュアの同定では、写真付きであっても不安と見ているのか、標本を県に提出していない為なのかは不明であるが、いずれにしても正式な数には含めないという事であろう。

しかし北海道でも青森県でも、最初に発見したのは国や県の職員ではなく、「虫屋」と呼ばれているアマチュアなのだが……。

9月7日 むつ市内の各町

|            |         |                     |
|------------|---------|---------------------|
| 上川町 (かみかわ) | 畑 (2ヶ所) | 成虫、幼虫共にモンシロのみ。      |
| 土手内 (どてうち) | 畑 (4ヶ所) | 成虫、幼虫共にモンシロ、スジグロのみ。 |
| 最花 (さいばな)  | 畑 (3ヶ所) | 成虫、幼虫共にモンシロのみ、      |
| 品ノ木 (しなのき) | 畑 (1ヶ所) | 成虫、幼虫共にモンシロのみ、      |
| 大曲 (おおまがり) | 畑 (2ヶ所) | 成虫、幼虫共にモンシロ、スジグロのみ。 |
| 関根         | 畑 (1ヶ所) | 成虫、幼虫共にモンシロ、スジグロのみ。 |
| 高梨         | 畑 (2ヶ所) | 成虫、幼虫共にモンシロ、スジグロのみ。 |

同日 下北郡東通村目名 向野 (めな むかひの) 畑 (2ヶ所) で成虫、幼虫共にモンシロのみ。

同日 大畑町釣屋浜 (つりやはま)

海岸近くの畑 (2ヶ所) でオオモンシロの終令幼虫7頭、3令幼虫2頭採取。

成虫はモンシロ、スジグロ、エソスジグロのみ。

部落の名前に刺激され(?)、沢山探っておいた青虫を使い、そばの溪流で竿を振り、20cm程度のイワナを3匹。

9月8日 東通村野牛 入口～古野牛 (のうし いりぐち～ふるのうし)、野牛沼 (のうしぬま)

畑 (5ヶ所) を調査するが、成虫、幼虫共にモンシロ、スジグロ、エソスジグロのみ。

同日 同村早掛平 (はやかけだいら) キャベツ畑では成虫、幼虫共にモンシロのみ。

同日 大畑町二枚橋 畑では成虫、幼虫共にモンシロのみ。

奥の溪流で20cmと25cmのイワナを2匹。

同日 風間浦村下風呂、桑畑、菅ノ尻

民家の庭 (2ヶ所) と畑 (2ヶ所) を調査するが、成虫、幼虫共にモンシロのみ。

桑畑の河口近くで、20cmのイワナ1匹、24cmと25cmのマス化した(腹部が白っぽい)イワナを2匹。

菅ノ尻の川の溜り (5mも下ると海で、波の強い日は波飛沫が顔に掛かる) で、青虫、蛇、バッタを使い、2時間程竿振りをする。

25cmクラス5匹を含め、18cm～24cmのイワナとアメマス22匹釣り上げ、満足して帰宅。

9月16日 むつ市川守町 (かわもりちょう)

一週間ぶりの休み、息子を連れ、溪流釣りを教えながらの採集。

東京のカミキリ屋さんからはコバヤハズを頼まれているし、オオモンシロも気に掛かる。

幼虫が見つかった近くの民家のキャベツ畑で探してもモンシロ幼虫のみ、しかし「餌」だけは確保!!

同日 同市釜臥山 (かまふせやま) スキー場 (標高200m付近) ～釜臥山八合目 (標高800m付近)

コバヤハズカミキリが少なく、ハスジゾウムシも夏より少なくなっている。  
途中の溪流で18cm~22cmのイワナを6匹釣り上げ、父親の貫禄を見せる。

同日 大畑町釣屋浜

釜臥山から恐山のと真中を通る恐怖の悪路の林道を抜け、一挙に海岸へ。  
民家のキャベツ畑を探すもモンシロ幼虫のみ、しかし餌の補給は完了！！  
近くの溪流でイワナ釣りの理論講義、18cm~21cmのイワナを4匹釣り上げる。  
次に菅ノ尻の川で息子の溪流釣り実践。  
息子は慣れない手つきで、なんとか17cm~22cmのイワナを3匹釣り上げる。  
秋の日は短く、あつと言う間に日が暮れてきた。  
最後に25cmクラスを釣りそこね、糸切れで逃がす、まあ最初はこんなものか。  
最初から尺近いイワナなんぞ釣られた日にゃ、父親の威厳も糞もあつたもんじゃない。  
その父親は溪流釣歴36年(途中30年のブランクがあるが…)の貫禄で、24~25cmを4匹釣り上げる。  
今日のイワナの塩焼きとビールは特別旨い。

9月19日 (奥戸の蛹)

朝、1♂1♀羽化、残り30頭のうち5~6頭が羽化の兆候。  
夜11時05分に1♂羽化、10分後に翅が伸び始め、15分程、体を盛んに揺すり、翅を伸ばしている。  
20日には3♂5♀羽化、残りは全て越冬蛹のようである。

同日 (釣屋浜の蛹)

2♀羽化、翌20日3♂羽化、残りの蛹1個体は死亡。

9月22日 むつ市関根

畑でキャベツを探すもモンシロのみ。

同日 大畑町釣屋浜

キャベツ、ブロッコリーからオオモンシロの4卵塊(100, 13, 26, 70)を採取。(卵塊の数は一部推定)

同日 風間浦村下風呂

民家の庭のハキャベツを探すもモンシロのみ。

同日 風間浦村易国間

民家の庭でオオモンシロの成虫1♀採集、キャベツよりオオモンシロの3卵塊(100, 40, 80)を採取。別の畑ではキャベツより1卵塊(80)、孵化したばかりの1齢幼虫、40頭、2齢幼虫、49頭を採取。

同日 大間町大間牧場、奥戸 館ノ上、材木

農家の畑でキャベツを探すもモンシロのみ。  
帰り道の溪流で竿を出し、18cmのイワナ2匹をおかずに帰宅。

9月23日 むつ市関根、高梨

今週も息子を連れて釣りの実践を兼ねながら探索。  
民家の畑のキャベツを探すもモンシロのみで、餌の補給である。  
高梨の河川は今年最後の釣りとはばかりに、ルアーフィッシングの釣り人が4人も滞在。  
釣れるのは15cm以下のイワナばかりで、釣れてもすぐ放流。  
このままでは「釣り教室」ができないので、薬研溪谷に向かい、息子とヤマベを6匹(16~18cm)釣りあげる。  
小物ばかりではつまらないので、同町木野部(きのつぶ)の海岸近くの溪流にも挑戦。

河口近くの溜りで18～22cmのイワナを9匹釣り上げたところで日没タイムアップ。

9月27日 大畑町釣屋浜

A B A（青森朝日放送）現地記者の川島明氏と同行、取材しながら探索。  
畑のキャベツ、ブロッコリーにはモンシロのみ。

同日 風間浦村易国間

成虫はモンシロのみ。  
民家の畑ではキャベツよりオオモンシロの1～2齢幼虫、約100頭を撮影、採取。  
郵便局裏の畑でもブロッコリー、ダイコンよりオオモンシロの1～2齢幼虫、約50頭を撮影、採取。  
すぐそばの易国間川では、鮭の産卵シーンも観察。

同日 大間町奥戸 館ノ上、材木

民家の庭のネワサビ、畑のブロッコリーよりオオモンシロの2齢幼虫、約80頭を採取。

同日 風間浦村菅ノ尻

取材も終わり、青虫は掃いて捨てる程採集しているので、同行の記者とイワナ釣り。  
18～23cmのイワナを4匹。

9月28日 むつ市大湊浜町（おおみなとはまちょう）、城ヶ沢 家庭菜園で探すも、モンシロのみ。

同日 下北郡川内町戸沢（とざわ）、宿野部（しゅくのべ）

同郡脇野沢村九艘泊（くそうどまり）、小沢（こざわ）、瀬野（せの）

川内のキャベツ畑では、全てモンシロ。  
脇野沢の畑はどこもニホンザルとカモシカ除けの電気柵があり、中には入れず。  
九艘泊川に入り、それまでに採取した青虫を使い、河口から釣りのぼる。  
河口付近はアメマスが溜り始めたようで30cmクラスを2匹。  
上に遡ると、18～22cmの紅腹のイワナが釣れ始めるが、すぐに溪流は意気地なく水が消えてしまう。  
次の脇野沢川は河口も大きく、水量も豊富で、大形の魚影がちらほら見え隠れしている。  
早速ルアーに持ち替え、ナイスキャストを繰り返すが、全く釣れてこない。  
仕方なく餌釣りに戻すと、なんとすぐに40cm近いウグイが掛かってきた。  
ウグイを釣っても仕様が無いので、リリース。  
上流に1km程のぼり、溪流らしくなったところで、おもむろに釣り始める。  
第1投目にモゾモゾとした当たりがあり、竿を合わせるが、意外に引きが強い。  
川の深みを左右にギョングユと逃げ回り、やっと上がってきた24cmの幅広ヤマメににんまり。  
秋の日暮は早すぎて、腕を振るう間もなく、18cmのイワナを1匹追加して投了。  
15cm以下のイワナが多く、外道のウグイ等の雑魚と共に全てリリース。  
トータルはヤマメ1匹、イワナ6匹、アメマス2匹。

9月29日 上北郡横浜町吹越（ふっこし）

畑の隅のアブラナ（菜の花）、ダイコン等を探すもモンシロのみ。  
有名な陸奥横浜の「菜の花畑」で、来年の春はモンシロの代わりに、オオモンシロが飛び交う姿も見てみたい気がするが。

同日 同郡六ヶ所村二股（ふたまた）

石油備蓄基地や原燃核リサイクル基地で大規模に開発されている六ヶ所村だが、この辺りは閑散とした集落がまだ残っている。  
畑のキャベツやダイコンで探すもモンシロのみ。  
イワナが多い事で有名な二股川に入るが、先客がいたとみえて魚がさっぱり見当らず。  
ここ青森県の溪流は9月で禁漁となる為、結局今年の溪流釣りは今日が最後になってしまった。

朝晩の冷込みも厳しく、ついに虫採り道具も溪流の竿と一緒に納め時である。

最後に、この招かざる(?)客はまだ半年にも満たない、短い期間を過ごした割には、早くも色々な裏話があちらこちらから聞こえてきている。

まずは、普段の仕事ぶりでは考えられない程、素早く対応できたという、ある県のお役人の話。新聞やテレビで大々的に騒がれ、不用意に「輸入野菜に付着してきた」と発言して、農水省の出先機関にこっぴどく反論されたという人の話。

また逆に、情報を提供しようとしたところ、「出荷農家(我々が買って食べる野菜を作っている農家)は、家庭菜園と違い、農薬をたっぷり使っているから被害は出ない。」と肩すかしぎみの、ある公的機関の話。こちらの話を追うのもまた別の意味で楽しいのだが、純粋な虫屋である筆者としては、これ以上は触れない事にしたい。

但し、虫も喰わない、いや喰えないキャベツが存在している事は間違いなく、下記の事例は筆者が飼育しているオオモンシロの幼虫で起きたケースである。

週末のある日、3齢幼虫が餌不足になり、飼育箱の一方には家の庭のキャベツの葉を、また別の飼育箱にはスーパーで買ってきたキャベツの外側の葉を与え、急場を凌いだ。

ところが2日後、庭のキャベツの方は約40頭の幼虫のうち、蒸れによる死亡個体が5頭しか出なかったが、買ったキャベツの方は約50頭のうち原因不明の死亡個体がほぼ8割の40頭にも及んだ。

ただこの現象が、残留農薬の所為なのか、それとも店売りのキャベツはバイオの力で虫に対しては毒性を持つようにでも変えられたのかは知らないが……。

ちなみに残った10頭の幼虫も、一週間後迄には全滅した。

話が横道に逸れたが、我々虫屋の関心事は、(1)この蝶がどんなルートで、いつ、どこから入ってきたのか、そして何と言っても、(2)果たして日本に定着できるかどうか、という事に尽きよう。

#### (1) 侵入経路、方法、時期、侵入元について

まずは、どこかの公的機関は強く否定しているが、輸入野菜に付着して密入国を果たしたと仮定する。

この場合、卵、幼虫、蛹のどれ(またはそれらの組合せ)が来たのだろうか。

まず卵は、1卵塊が百の単位で産まれる為、大量の難民ならぬインベーダーが一遍に侵入可能である。そしてまた、卵は非常に目につきづらいが、1週間程で孵化する幼虫については、集団で食害する為に目立ち易く、世界一厳しいと云われる我国の防疫官の目を逃れる事は不可能であろう。

しかも卵も幼虫も蒸れには非常に弱く、密閉されたコンテナ等では恐らくほとんどが死滅するものと思われ、生き残る可能性はかなり低い。

この蝶を飼育していると、ほとんどの幼虫は食草を離れて付近の物に蛹化し、稀に食草で蛹化した場合も、黒変して死亡したり、羽化不全をおこしたりし易いようである。

つまり、蛹の場合も蒸れには弱く(注)、食草に付着したまま、相当の個体数で密入国する事はかなり困難と思われ、結局どこかの公的機関の主張にも頷ける部分がある。

但し、ほんの数頭で今回のような大規模な分布拡大が可能な種であれば、その限りではない。

(注)「ファーブル昆虫記」から引用

(オオモンシロの蛹は)灼けつく暑さも、凍りつくひどい寒さも殆ど平気だ。…中略…いつも湿り気のない風通しのいい住居があれば足りるのだ。

次に、この蝶の渡りの能力を買い、大陸から領空侵犯をしながら北海道辺りに侵入したと仮定する。この場合、北海道で最初に採れた6月8日以前に入ったのは明らかであるから、今年と限定すれば、成虫が発生し、飛翔できる時期は4月～5月のたった2ヶ月間となる。

この時期に大陸から強い西風が吹くとすればその可能性もあるが、もしあまり吹かないとすれば、むしろ昨年以前に遡って考えた方が無理がない。

また一般的に、個体数が著しく増加するのは越冬直後より第2化以降であり、わざわざ少ない個体数で集団を作り、渡りをするとは考え難い。

一方、北海道では昨年から居たらしいという話や、下北半島でも昨年もこの幼虫を見たというような、ある程度確かな情報もあり、どうやら昨年のうちに密かに侵入し、スパイ活動でもしていたものだろうか。

従って、筆者の貧しい想像力で推理すると、以下ようになる。

昨年夏頃、数百から数万の数のオオモンシロがはるばる日本海を越え、ステルス戦闘機の如くレーダーにも引っ掛からず、北海道や東北の西部海岸地帯に到達したものであろう。

本州には今年になってから侵入した可能性もあるが、下北半島での昨年情報を考えると、北海道と一緒に一挙に侵入したものと考えた方が無理がない。

また侵入元は中国や朝鮮半島であれば、上陸先は九州や山陰地方の可能性が高く、これだけ目立つ蝶が山陰地方辺りから北海道まで、人目につかずに移動できるとは考え難い。

恐らくはロシア沿海州の大規模に野菜を作っている地域からではないだろう。

今後、日長時間等による蛹の越冬条件がはっきりすれば、侵入元も特定できるのかもしれない。

## （2）将来この蝶がどうなるのか？

過去、チョウセンシロチョウという迷蝶が、北海道中央部で一時的に繁殖を繰り返したが、結局のところ、越冬後の翌年は数を著しく減らし、ついには居なくなってしまった事例がある。

また古く60～70年代に、エゾシロチョウが山から里へ勢力を伸ばし、ついにはサクラ、ナシ等の大害虫に変身し、今や市街地の王者となっている例もこのケースと全く無関係ではないような気がする。それと、上記の2種の幼虫がオオモンシロの幼虫に似ているのは単なる偶然だろうか、それともシロチョウ科の幼虫の祖先型、又は進化の過程の進んだものなのか、浅学にして筆者には判断がつかない。

筆者の僅かな観察例で恐縮ではあるが、この蝶は蒸れに非常に弱く、幼虫が死亡しやすい事、また蛹も羽化前に蒸れると死亡したり、翅に水泡が残る個体が羽化したりする事がある。

独断と偏見で言えば、この蝶は我国の高温多湿の気候には非常に不向きであり、チョウセンシロチョウのように来年以降は数を減らし、2～3年後には全く見られなくなる、といった都合の良い可能性もあるが、むしろ、エゾシロチョウのように、どこにでも大量にある、栽培野菜を食草にして、梅雨のない北海道や東北北部等に勢力を増し、飛翔力に物を言わせ、東北南部や関東等でも時々見られる蝶になる可能性の方が高いような気がする。

発生地では在来種のモンシロとの、畑を巡る熾烈な種間競争の行き末にも興味が持たれる。

どちらにしても越冬後の来春が楽しみであり、また恐怖とも言えよう。

筆者の大好きなロールキャベツや焼きサンマの横の大根おろしを来年は食えなくなるかもしれないからだ。

消費税の5%と、1玉1000円のキャベツや1本800円のダイコンは想像したくもない。

さて、みちのくの奥地に転勤し、虫採りの片手間に始めた「溪流釣り」にのめり込んで早2年。釣りの餌用の青虫採りから、今年はなんと蝶屋に戻ったが如く、オオモンシロチョウフィーバーに巻き込まれ、新聞に載り、ついには地元テレビのニュースで、幼虫探索を放映までされた。

おかげで、甲虫採りはお休みをいただき、甲虫屋さんにはひどく不評を買ってしまい、弁解の余地もない。しかし、初めて採れた蝶の感動は大きく、また久々の蝶採りもとても楽しかった。

現在もオオモンシロの幼虫は飼育しており、飼育の記録については、また別の機会に発表したい。

末筆ながら各地の情報を頂いたり、採集にご協力を頂いた、猪子龍夫、小松利民、神田正五、川田光政、川島明の各氏に深く感謝申しあげる。

文中の地名（青森県の町、村名）の読み方について

|      |               |               |             |
|------|---------------|---------------|-------------|
| 下北郡  | 大間町……おおままち    | 風間浦村……かざまうらむら | 大畑町……おおはたまち |
|      | 佐井村……さいむら     | 東通村……ひがしどおりむら | 川内町……かわうちまち |
|      | 脇野沢村……わきのさわむら |               |             |
| 上北郡  | 横浜町……よこはままち   | 六ヶ所村……ろっかしよむら |             |
| 北津軽郡 | 小泊村……こどまりむら   |               |             |
| 東津軽郡 | 三厩村……みんなやむら   |               |             |

## 参考文献

クレンツォフ(1970) 阿部光伸訳 白水隆監修(1988) 極東のチョウ  
 フェーブル(1909) 山田吉彦 林達夫訳(1962) フェーブル昆虫記 第二十分冊 岩波文庫



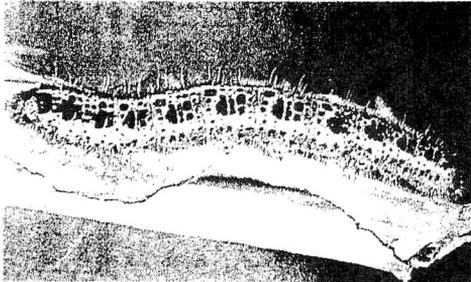
1996 (平成8年) 8月24日(土)

第37672号

(第三种郵便物認可)

東 興

### オオモンシロチョウの幼虫



# 見つけたら すぐ連絡を

## 県、広く呼び掛け

### 下北半島にも調査拡大

国の特定重要病害虫で、キヤベツの大害虫オオモンシロチョウが小泊村で捕獲された問題で、県は二十三日、津軽半島に加え下北半島にも範囲を広げて調査したが、オオモンシロチョウは見つからなかった。県は適明後も調査を続ける一方、二十六日に担当者による対策会議を開く。

現地調査には、県農業試験場と津軽地域病害虫防除所から五人、県畑作園芸試験場と南部地域病害虫防除所から四人の計九人が参加。津軽は三厩村、下北では風間浦村、大間町、佐井村などを回り、各地でチョウを捕獲したが、オオモンシロチョウは確認できなかった。

県農業技術課は「大畑町で捕獲したチョウ一匹の種名が判別できなかったため、さらに詳しく調べたい」と話している。

オオモンシロチョウの幼虫は青虫だが、オオモンシロチョウは派手な色をしている。写真の幼虫の体長は48。(エルハード・トデイ著「ザ・キヤタ・ブライズ・オブ・ヨーロッパ・バタフライズ」より)

十二日などとなっている。県は適明後も、オオモンシロチョウが飛来する可能性の高い津軽・下北半島を中心に現地調査を続けるとともに、キヤベツの主産地を

#### 成虫や幼虫の発見が相次ぐ

北海道

本県より早くオオモンシロチョウが見つかった北海道では、道内の昆虫同好会が六月八日、後志支庁管内でオオモンシロチョウの雄の成虫一匹を発見、国内初の確認例となった。その後、札幌市、小樽市、伊達市、奥尻島など札幌周辺以南の各地で成虫や幼虫の発見が相次いでいる。北海道病害虫防除所の担当者は「道内でオオモンシロチョウが発生した原因は、輸入野菜などに付着して侵入したのではないかと推測している。」

巡回する。オオモンシロチョウの幼虫は黒い斑(はん)紋のある黄色っぽい毛虫で、モンシロチョウの幼虫の青虫と全く異なるため、区別し

やすい。県の担当者は「キヤベツ畑などで委わった幼虫を見つけたら、連絡してほしい」と話している。オオモンシロチョウの成虫は、在来種のモンシロチョウよりひと回り大きく、前の羽の外縁部の黒い帯が上字型になっているのが特徴。しかし、飛んでいるチョウがオオモンシロチョウかどうかを判別するのは専門家でも難しく、一匹ずつ網で捕獲する確認作業が必要だ。



平成8年(1996年)8月28日(水)

(第三種郵便物認可)

東 興 日 幸 辰

# 病害虫オオモンシロチョウ

## 風間浦の幼虫は、クロ、

### 農水省植物防疫所が断定

## 県、30日に全県調査

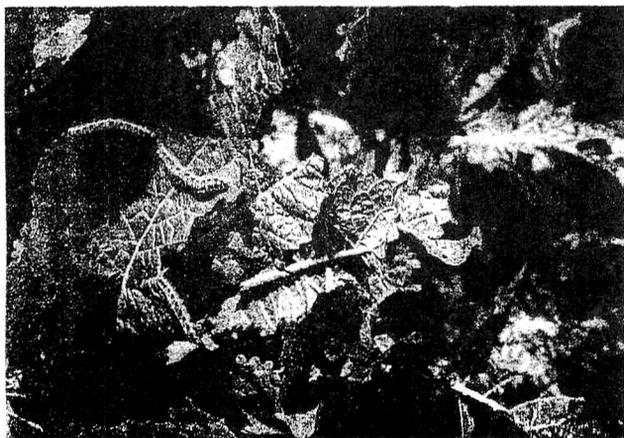
風間浦村易園間の無農薬菜園で見つかったチョウの幼虫は二十七日、県が横浜市の水戸横濱植物防疫所に鑑定を依頼した結果、特定重要病害虫オオモンシロチョウの幼虫と確認された。幼虫の確認は県内で初めて。県は三十日、キャベツ主産地を中心に県内一円で一斉調査し、発生範囲をさらに詳しく調べる。

県は、同村の無農薬菜園で二十三日に採捕した幼虫四匹がオオモンシロチョウの可能性が高いと判断、サナギになった一匹を除く三匹を二十七日に同防疫所に持ち込んだ。同防疫所は、特徴から三匹ともオオモンシロチョウの幼虫と断定した。

一方、県は二十六日に津軽地方の弘前、木造、鯉ヶ沢、車力の四市町村七地点でチョウの成虫九十六匹、

幼虫百八匹、県南地方の三沢、百石、下田三市町十七地点で成虫百三十匹を採捕したが、すべてモンシロチョウだった。

既に成虫や幼虫の発見が相次いでいる北海道では一般農家の作物に被害が出て



大間町奥戸で見つかった幼虫

おらず、県は普通の防除方法で処理が可能とみている。三十日は、県内十四の農業改良普及センターと津軽、南部両地域病害虫防除

### 幼虫らしい虫

### 大間でも発見

大間町奥戸館ノ上の漁業能登久さん(四七)が二十七日、自宅前で栽培しているネワサビに、特定重要病害虫オオモンシロチョウらしい幼虫がついているのを見出し、大間町農林畜産課に届け出た。

能登さんによると、家族が同日朝、数十匹の幼虫がネワサビの葉を食べているのを見つけた。ネワサビは

数年前から栽培しているが、この幼虫が現れたのは初めてだという。幼虫は、同日夕までにかなりの葉を食い荒らした。

所を一斉に動員し、家庭菜園など農薬を散布していない箇所も含めて発生の有無を調べる。

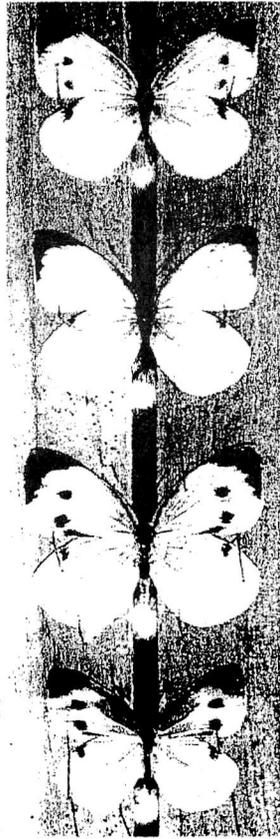
幼虫は大きさが三〜四センチ。黄色と黒のまだら模様で、体に毛が生えている。新聞などで見たオオモンシロチョウの幼虫に、かなり特徴が似ていたことから、届け出た。

町農林畜産課は、採捕した幼虫を確認したが、オオモンシロチョウであるかどうかは確定できないため、むつ地域農業改良普及センターに連絡した。同センターなどは後日、調査することとしている。

下北地方では先ごろ、風間浦村易園間の無農薬菜園でもオオモンシロチョウとみられる幼虫が発見されている。

平成8年(1996年)8月29日(木)

東 興 日 幸 辰



荒木さんが採捕した成虫。上からモンシロチョウ雄、オオモンシロチョウ雄、同雌、モンシロチョウ雌

病害虫オオモンシロチョウ

### 成虫、サナギ採捕

風間浦 むつの昆虫研究家

チョウなど昆虫の研究を一日、風間浦村易園地区で続けている、むつ市の会社 特定重要病害虫オオモンシロチョウの成虫二匹とサナギ

ギを採捕した。

サナギは、先ごろ学校菜園でオオモンシロチョウの幼虫が見つかった同村易園小学校の校舎の壁に二つくっついているのを発見した。抜け殻が五つ、死が二つもあったという。成虫

は、同小から百ほど離れた民家付近とキャベツ畑で見つけ、雄と雌一匹ずつを採捕した。オオモンシロチョウはモンシロチョウよりも大きく、前の羽の外縁部の黒い帯がし字形になって

### 大根畑で食害

北海道

本県上陸が問題になっているオオモンシロチョウの幼虫は「キャベツの大害虫」と言われていたが、大根、白菜、カリフラワー、ブロッコリーなど、アブラナ科の野菜に広く被害を及ぼす恐れが出てきた。

北海道では大根畑で被害が確認され、津軽昆虫同好会(工藤忠代表)は「キャベツだけでなく、アブラナ科の栽培植物を幼虫の食害

いるのが大きな特徴。また、雄は前の羽の黒い丸紋がなく、雌はモンシロチョウ(茶色がかった白色)より白という。

オオモンシロチョウ(幼虫を含む)が民家付近などで見つかったのと同じく、荒木さんは「モンシロチョウはほかのチョウを追いつく性質がある。いまはモンシロチョウの方が数が多いため、キャベツ畑にオオモンシロチョウが定着できずにいるのではないかとみている。さらに「オオモンシロチョウは、家庭菜園などに飛来し、数が増えた時点でキャベツ畑に侵入しモンシロチョウを駆逐していくことが考えられる」と話している。

から守るための対策を急ぐべきだ」と、注意を呼び掛けている。

工藤代表によると、オオモンシロチョウの幼虫が好むのは、これまでキャベツが知られていた。ところが北海道では、大根畑からかなりの数のオオモンシロチョウの幼虫が見つかり、葉を食い荒らされる被害が出ているという。また小樽市の西の若内では一人で成虫百数十匹を採捕したり、稚内市でも成虫が確認されるなど、発生分布と被害が道

南から道北まで広がっている。本県では大間町で二十七日、ネワサビにもオオモンシロチョウらしい幼虫がついているのが見つかったが、このネワサビもアブラナ科。工藤代表は「本県でも八月下旬に飛来した成虫が産んだ卵は、九月に入れば羽化し産卵する。サナギで越冬するまでに年内にも一回、幼虫による食害が発生する恐れがある。このままでは、ねずみ算式に分布が広がってしまう」と指摘している。

1996年8月31日

第37679号

(第三種郵便物認可)

東

興

日



キャベツ畑を調査する職員＝青森市三内沢部

平成8年(1996年)9月3日(水)

# 病害虫・オオモンシロチョウ

## 県が一斉調査

### 2日までに結果まとめ

出農林部は、一日、風間 斉調査を実施した。県内十し、キャベツなどに幼虫が 浦村などで発生が確認され、四農改善センターと津軽 ついでに、成虫が飛 ている特定種病害虫・オ 南部病害虫防所職 来していないかを實際探 しをまとめ、植物防疫法に オモンシロチョウの県内一 員が全市町村の畑を巡回 捕して調べた。九月二日ま 基づく農水の適正に注 ぐ。特報は、出農林部 での調査結果をまとめた。 県内の発生地点や密度な 合は三十、日までに風間 かねて調査結果をまとめた。 加藤昇技師らが成虫を採 補して羽の長さを調べた。 幼虫の羽直コピを要 考に外見の似た個体が いていないかを調べた。 各 ンター、両防所と、同 しい個体が見つかった。 合は三十、日までに風間 かねて調査結果をまとめた。 加藤昇技師らが成虫を採 補して羽の長さを調べた。 幼虫の羽直コピを要 考に外見の似た個体が いていないかを調べた。 各

## オオモンシロチョウ

# 幼虫・サナギ50匹確認

### 県の一斉調査結果 全域に予察特殊報

青森地城改修及セブンシロチョウかどうかを確認し、ロキヨウ発生にかかわる などに連発する。 特殊報は、こと五月 力は巡回した。青森市、四、 県農業技術課は、日までに オオモンシロチョウの 旬に本県で予察 内部の農協(岩手県キヤベツ)に 県内調査の結果をまとめた。 特報、発生経過などを された害虫、ミカゲイ、 トアロウワリーの畑では、 火燭中にもオオモンシ の出先機関や市町村、 農協 アサミワ以来、 加藤昇技師らが成虫を採 補して羽の長さを調べた。 幼虫の羽直コピを要 考に外見の似た個体が いていないかを調べた。 各

同二十八日に一般市民が、チョウの幼虫が小泊村職員 らむつ地域農改普及センタ で四匹、むつ市川守町で二 一に持ち込まれた幼虫十四 匹、大畑町釣屋浜で八匹、 大間町奥戸、材木で三十五 匹もオオモンシロチョウと 判明。飛翔(ひしよ)力 匹、また、サナギ一匹が風 が強く発生拡大が懸念され、 間浦村豊岡間で発見され ることから、津軽、南部問 た。

病害虫防所は二日付で病 害虫発生予察特殊報を出し た。幼虫十四匹(むつ、大間、 風間浦で発見)と合わせて、 ば、幼虫六十三匹、サナギ 一匹がいずれも津軽・下北 調査は県内の十四農改普 及センターと両防所職員 両半島で発見されており、 合わせて百五人が、県内全 道方面から飛来してきた可 能性も出された。

市町村の一般栽培場等九 十地点、家庭菜園三百十六 地点で実施した。

その結果、オオモンシロ チョウの幼虫やロキヨウ幼虫

ヨウと同一回り大きく、サることを説明して、 ナギで越冬するを推測される。

1996年(平成8年)9月3日(火曜日)

言

査

糸

戸

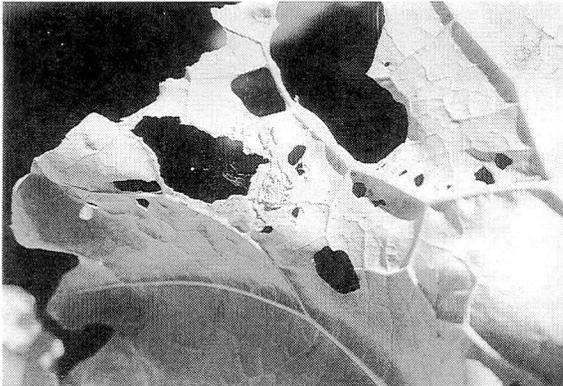
### 50個体採取

オオモンシロチョウ  
県が調査結果発表

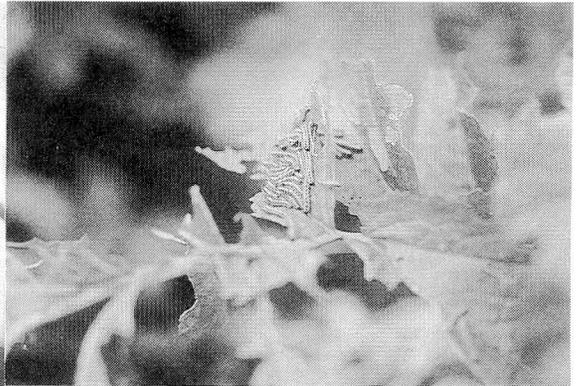
県は二日、先月三十日に全県下で特定重要病害虫オオモンシロチョウの発生状況を一斉に調査した結果、幼虫など五十個体を採取したと発表した。一斉調査より前に県民から持ち込まれた幼虫十四匹もオオモンシロチョウであったことから、県内で計六十四匹が確認されたことになり、津軽、南部両地域病害虫防除所は同日、「病害虫発生予察・特殊報」を出して関係機関に注意を促した。

県の調査では、むつ市と大畑町、大間町、風間浦村、小泊村の五市町村の家庭菜園六地点で、幼虫四十九匹、さなぎ殻一個が見つかった。オオモンシロチョウは飛しよう力が強く、これから広範囲に広まる恐れがある。

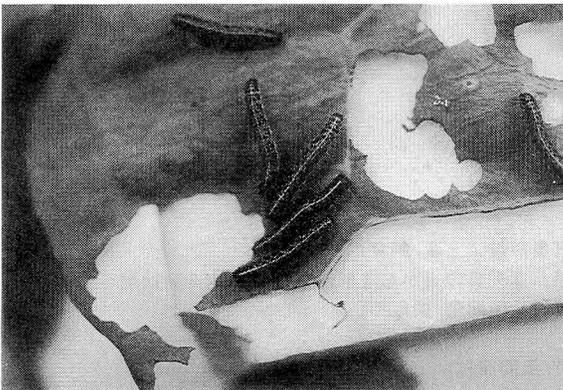
別紙 9



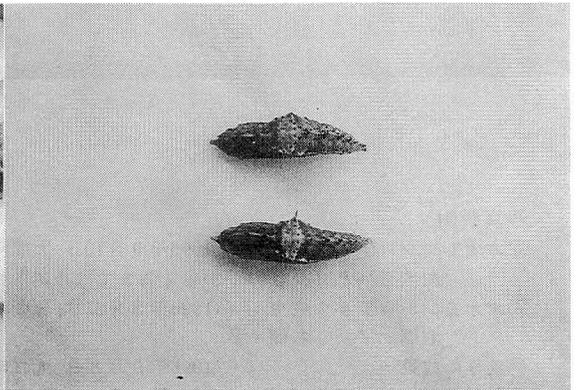
①



②



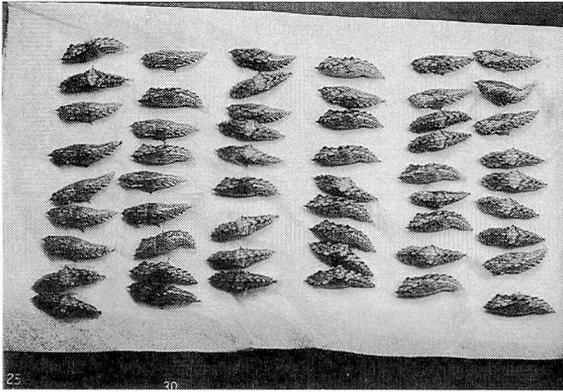
③



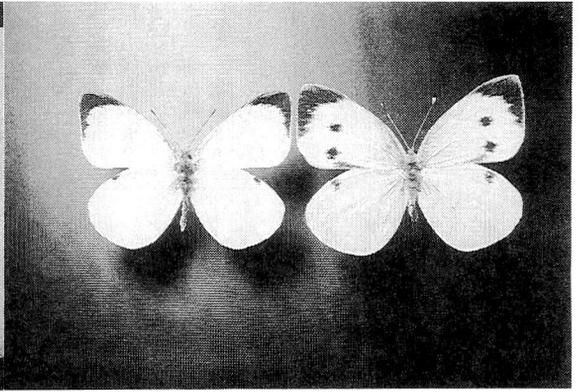
④

#### 写真説明

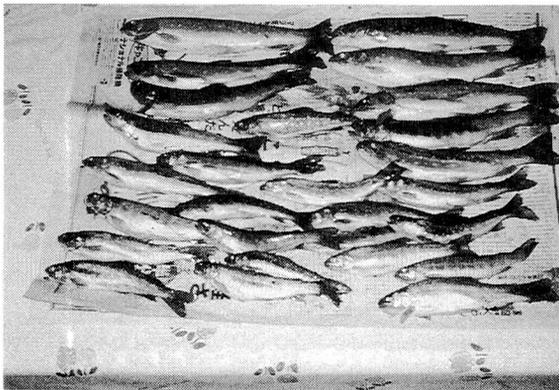
- ①オオモンシロチョウ 2 齢幼虫 (1996年 9 月 27 日, 風間浦村易国間, キャベツ) キャベツの葉裏で, 体長約 8 mm
- ②オオモンシロチョウ 3 齢幼虫 (1996年 9 月 27 日, 風間浦村易国間, ダイコン) ダイコンの葉裏で, 体長約 8 mm
- ③オオモンシロチョウ 終齢幼虫 (1996年 8 月 31 日, 大間町奥戸館ノ上産, 飼育) キャベツ, 体長約 8 mm
- ④オオモンシロチョウ 蛹 (1996年 9 月 10 日, 大間町奥戸館ノ上産, 飼育) 上: 越冬蛹, 下: 非越冬蛹



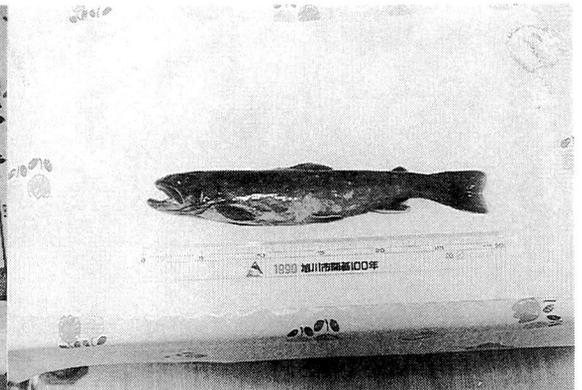
⑤



⑥



⑦



⑧

写真説明

- ⑤オオモンシロチョウ蛹 (1996年9月10日, 大間町奥戸笹ノ上産, 飼育)  
左側2列と3列目の下から4個までは非越冬蛹。3列目の上から4個から残り右側3列は越冬蛹。
- ⑥オオモンシロチョウ成虫 (1996年8月27日, 風間浦村易国間産, 採集品)  
右側: ♂ 右側: ♀
- ⑦釣りの成果 (1996年9月8日, 大畑町, 風間浦村)
- ⑧今年のアベレージサイズ (1996年9月28日, 脇野沢村)  
29.5cm イワナ? or アメマス?

(あらき さとし 〒035 青森県むつ市下北町10-18)

.....

## アオマツムシは忍者修行中 (続編)

萩原 昇

.....

アオマツムシ雌が葉の上に静止する時に、触角を折り曲げて体の下に入れる行動について、本誌61号(1991年10月)で報告したとおりであるが、特異な行動であるため触角のクリーニング行動ではないかとの疑問も残っていた。

本年9月17日の午後9時30分頃、偶然にも自宅の部屋の中にアオマツムシの1♀が飛び込んできたので、前述の事を思い出し、以下のような観察・実験を試みた。その結果を報告する。

### 1. 観察日時

1996年9月17日 21:30 ~ 22:40

### 2. 観察場所

埼玉県春日部市梅田本町 2-9-3 (自宅の室内)

### 3. 観察個体

アオマツムシ 1♀

### 4. 観察方法

アオマツムシをネズミモチの葉の上に静止させ、電灯を薄暗くして、その行動を観察した。また、意図的にアオマツムシの触角を刺激したり、体の向きを変えて観察を行った。

### 5. 観察結果

#### (1) 触角のクリーニング

触角を刺激すると、触角を上下左右に振り、刺激を避けようとする。その後、触角を左右1本ずつ別々に体の下に折り曲げていれ、口器で触角をくわえて基部から先端に向かってクリーニング(写真…1)を行った。1本の触角をクリーニングするのに要した時間は約30秒、左右を2本を合わせても1分30秒を越えなかった。

また、脚についても、その先端を口器でくわえてクリーニングするような行動が見られた。

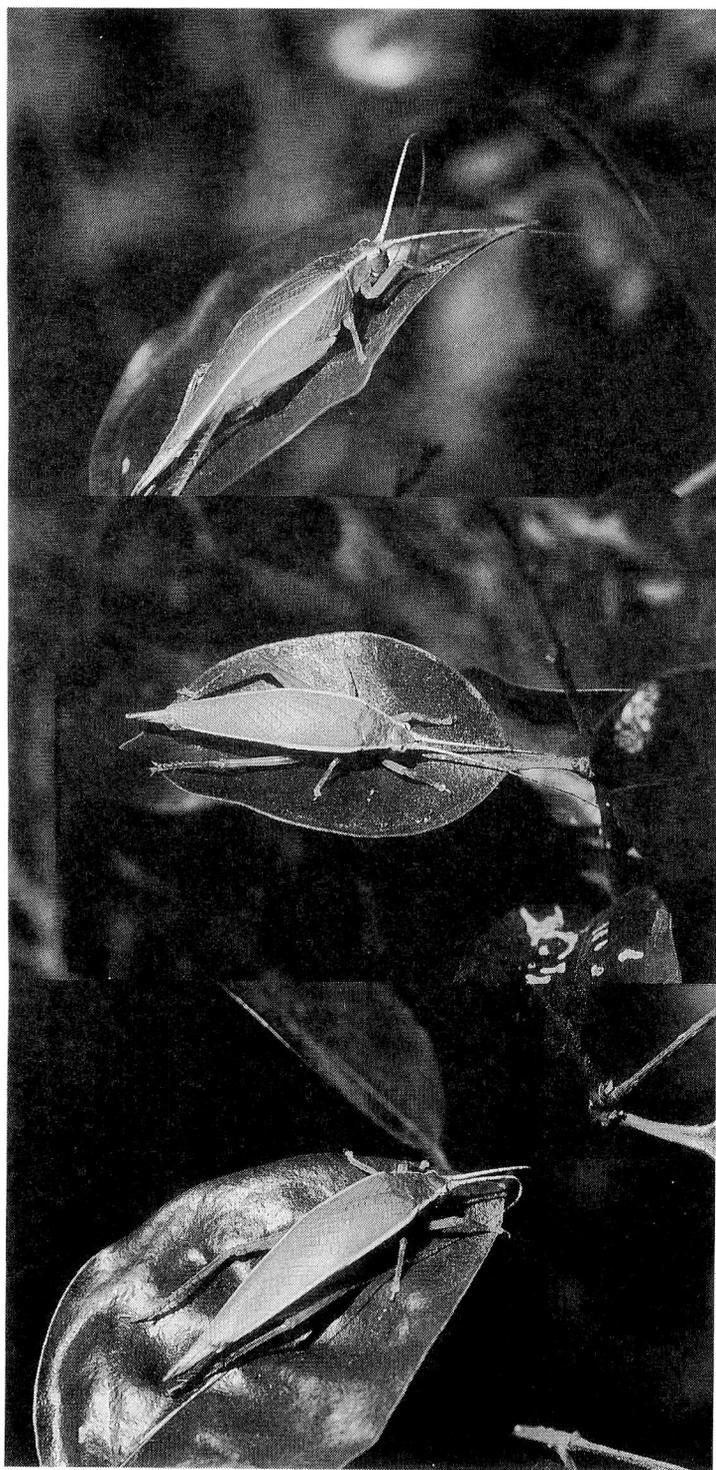
#### (2) 葉の上での静止と触角の位置

① アオマツムシの体を葉の付け根の方向に向けると、すぐに2本の触角を葉柄に沿って静止し(写真…2)、体と触角を葉に密着させて動かなくなった。

② アオマツムシの体を葉の先端の方向に向けると、触角を上下左右に動かし落ち着かない行動を繰り返し、触角のクリーニングや脚のクリーニングを行った。その後も、落ち着かない行動を繰り返した後、2本の触角を体の下にいれ(写真…3)、体を葉に密着させて静止した。この姿勢を10時05分から10時40分まで続けた。

### 6. 考察

以上の観察結果から、アオマツムシの行った触角を体の下にいれて静止する行動は、触角を2本同時に体の下にいれる事から、触角のクリーニングとは全く別の行動であると考えられ、体を葉に密着させることで外敵から発見されにくくする「アオマツムシの忍法」ともいえるべき行動であると考えられる。



上：写真1  
触角をクリーニングする  
アオマツムシ

中：写真2

下：写真3

(はぎわら のぼる 〒152 春日部市梅田 614-1)

## 埼玉県秩父郡大滝村中津川の7月の蛾類

萩原 昇・玉木長寿

以下の報告は、1996.07.16に秩父郡大滝村の大滝村中津川の「中津屋」付近で玉木長寿氏が実施した燈火採集で得られた蛾類をまとめたものである。報告にあたり、貴重な採集品を提供していただいた同氏に感謝申し上げます。

## 凡例

1. 学名および種の配列は日本産蛾類大図鑑 (1982) による。
2. 記録は、以下のように記述した。  
カタログ番号 (日本産蛾類大図鑑で使用している整理番号), 和名, 記録個体数。  
1) 記録地は、すべて秩父郡大滝村中津川の中津屋付近である。  
2) 記録個体数に関しては、雌雄それぞれの個体数が分かっている場合には、♂♀の記号の前に数字で示した。雌雄が不明の記録個体については、ex. を付した。  
3) 記録日は、全て1996年07月16日である。(記述を省略)  
4) 記録者は、全て玉木長寿である。(記述を省略)

## マルハキバガ科

1141 ホソバキホリマルハキバガ 1 ♂

## イラガ科

1374 ナシイラガ 2 ♂

## メイガ科

|                 |        |                 |        |
|-----------------|--------|-----------------|--------|
| 1589 シロヒトモンノメイガ | 3 exs. | 1750 モンスカシキノメイガ | 6 exs. |
| 1613 キバラノメイガ    | 1 ex., | 1852 オオフトメイガ    | 1 ♂    |

## カギバガ科

2080 マエキカギバ 1 ♀ 2091 ギンモンカギバ 1 ♂

## トガリバガ科

|               |     |               |        |
|---------------|-----|---------------|--------|
| 2125 オオトガリバ   | 1 ♂ | 2136 ウスイロトガリバ | 5 exs. |
| 2135 ギンモントガリバ | 1 ♀ |               |        |

## シャクガ科

|                  |         |                  |         |
|------------------|---------|------------------|---------|
| 2166 ホシシャク       | 2 ♂ 3 ♀ | 2782 ヨツメエダシャク    | 1 ♂ 1 ♀ |
| 2173 オオアヤシャク     | 5 ♂     | 2808 ヒロオビオオエダシャク | 1 ♂     |
| 2185 カギシロスジアオシャク | 1 ♂     | 2844 ウスイロオオエダシャク | 2 ♂ 3 ♀ |
| 2649 シロオビヒメエダシャク | 1 ♀     | 2902 ムラサキエダシャク   | 1 ♂     |
| 2673 アトグロアミエダシャク | 1 ♂     | 2928 ウコンエダシャク    | 1 ♂     |
| 2737 ヒョウモンエダシャク  | 1 ♂ 1 ♀ | 2931 ウスキツバメエダシャク | 1 ♂     |
| 2779 リンゴツノエダシャク  | 1 ♂     |                  |         |

カレハガ科

2974 リンゴカレハ 1♂ 2979 ミヤケカレハ 1♂

カイコガ科

2984 クワコ 2♂

ヤママユガ科

2998 オオミズアオ 1♂

スズメガ科

3027 ウンモンズズメ 1♂ 3065 コスズメ 2♂  
 3032 エゾスズメ 1♂ 3069 ビロードズズメ 3♂  
 3039 クルマズズメ 7♂ 3070 ミスジビロードズズメ 2♂  
 3057 ペニスズメ 1♂

シャチホコガ科

3087 バイバラシャチホコ 1♂ 3179 ウスイロギンモンシャチホコ 2♀  
 3126 セダカシャチホコ 1♀

ドクガ科

3203 ヒメシロモンドクガ 2♂ 3214 キアシドクガ 1♂2♀

ヒトリガ科

3257 ニセキマエホソバ 3 exs. 3295 ベニヘリコケガ 1♂  
 3265 キベリネズミホソバ 1♀ 3309 スジモンヒトリ 4♂  
 3268 ヨツボシホソバ 1♀ 3327 ホシベニシタヒトリ 1♀  
 3269 クビワウスグロホソバ 1♂

ヤガ科

3410 アオケンモン 3 exs. 3884 シラホシキリガ 1♂  
 3412 ゴマケンモン 1♂2♀ 4223 ウンモンクチバ 1 ex.,  
 3473 シロスジキノコヨトウ 1 ex., 4234 モンシロムラサキクチバ 1 ex.,  
 3514 ウスイロカバスジャガ 1♂ 4358 ホソツマキアツバ 1 ex.,  
 3542 キシタミドリヤガ 1♂ 4503 オオシラホシアツバ 1♂  
 3860 シロモンオビヨトウ 1 ex.,

トラガ科

4577 コトラガ 1♀

(はぎわら のぼる 〒152 春日部市梅田 614-1)  
 (たまき ながひさ 〒350-04 入間郡毛呂山町大字前久保 332-122)

.....

## 入川林道(東京大学農学部演習林)早春の蛾類(1996)

萩原 昇・築比地秀夫・土橋秀行・柴田直之

.....

以下の報告は、1996年4月27日に秩父郡大滝村の入川林道(東京大学農学部演習林)で実施した燈火採集で得られた蛾類をまとめたものである。今回の調査より、オオウスアオハマキをはじめする埼玉県で初記録となる9種の蛾を採集することができた。

また、昨年(1995.04.29)に同地点で採集を実施した。2つのデータを比較すると、イボタガの飛来がなかったことやシーベルスシャチホコ・アマギシャチホコなどが非常に新鮮な個体であった事などから、本年の蛾類の発生が遅れていることがはっきりと読み取れた。

なお、採集にあたり、現地の案内及び採集場所を提供していただいた佐々木和男氏に感謝申し上げます。

### 凡例

1. 学名および種の配列は日本産蛾類大図鑑(1982)による。
2. 記録は、以下のように記述した。  
 カタログ番号(日本産蛾類大図鑑で使用している整理番号)、学名、和名、記録個体数、記録者；  
 1) 記録地は、すべて秩父郡大滝村の東京大学農学部演習林(標高1200m付近のブナ帯)である。  
 2) 記録個体数に関しては、雌雄それぞれの個体数が分かっている場合には、♂♀の記号の前に数字で示した。雌雄が不明の記録個体については、ex. を付した。  
 3) 記録日は、全て1996年4月27日であるため、記述を省略した。  
 4) 記録者については、築比地秀夫… H.T, 萩原 昇… N.Hを、その他については採集者名を付した。

### TORTRICIDAE ハマキガ科

- 204 *Acleris roseidana* (HUBNER) オオウスアオハマキ  
 1♂1♀, N.H.; (埼玉県初記録)

### PTEROPHOROIDEA トガリバ科

- 2116 *Monothyatira pryeri* (BUTLER) ウスベニトガリバ  
 1♂, 柴田直之;  
 2146 *Neoploca arctipennis* (BUTLER) マユミトガリバ  
 1♀, H.T.; 2♂, N.H.;  
 2148 *Neodaruma tamanukii* MATSUMURA タマヌキトガリバ  
 1♂, H.T.; 3♂, N.H.; 1♂, 土橋秀行;  
 1961年4月22日に三峰山で記録あり(市川; 1962)、県内2番目の記録。

### GEOMETRIDAE シャクガ科

- 2346 *Trichopteryx hemana* (BUTLER) シタコバネナミシャク  
 2 ex., H.T.;  
 2355 *Trich opteryx ussurica* (WEHRLI) マダラコバネナミシャク  
 1♀, H.T.;  
 1959年4月6日に三峰山、1961年4月22日に大輪・三峰での記録があり(市川; 1962)、県内3番目の記録。

- 2356 *Trichopteryx ustata* (CHRISTOPH) クロオビシロナミシヤク  
2 ex., H. T.; 1 ♀, N. H.; (埼玉県初記録)
- 2425 *Idiotephria evanescens* (STAUDINGER) ナカモンキナミシヤク  
1 ♂, N. H.;
- 2511 *Venusia megaspilata* (WARREN) フタモンコナミシヤク  
1 ♀, H. T.; (埼玉県初記録)
- 2552 *Eupithecia nipponaria* LEECH マエナミカバナミシヤク  
1 ♂ 1 ♀, N. H.; (埼玉県初記録)
- 2557 *Eupithecia nagaii* INOUE ナガイカバナミシヤク  
1 ex., N. H.; (埼玉県初記録)
- 2826 *Phigalia sinuosaria* LEECH シモフリトグエダシヤク  
1 ♂, H. T.;
- 2831 *Apochima juglansiararia* (GRAESER) オカモトトグエダシヤク  
1 ♂, H. T.;
- 2847 *Medasina nikkonis* (BUTLER) ニッコウエダシヤク  
1 ♂, H. T.;
- 2849 *Pachyligia dolosa* BUTLER アトジロエダシヤク  
2 ♂, N. H.;
- 2850 *Deskoreba simplex simplex* (BUTLER) ハスオビエダシヤク  
1 ♂, H. T.;
- 2871 *Psyra bluethgeni* (PUNGELER) クロモンキリバエダシヤク  
1 ex., H. T.;
- 1960年5月16日、白岩小屋での記録があり(市川; 1962) 県内2番目の記録.

SATURNIIDAE ヤママユガ科

- 3000 *Aglia tau* (LINNAEUS) エゾヨツメ  
1 ♂, H. T.; 1 ♂, N. H.; 1 ♀, 土橋秀行; 1 ♂, 柴田直之;

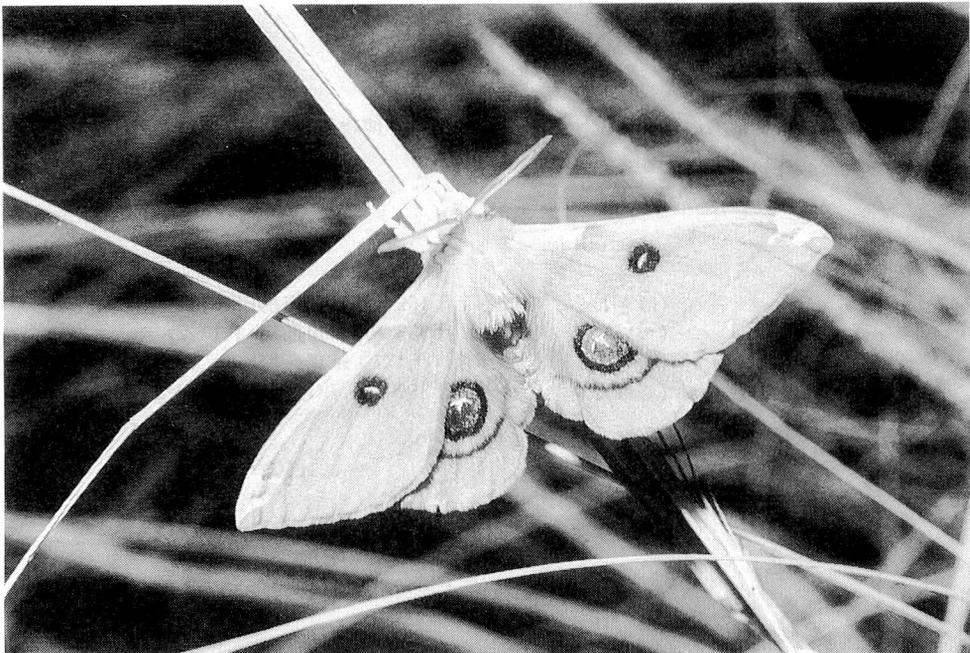
NOTODONTIDAE シャチホコガ科

- 3148 *Eridonta amagisana* (MARUMO) アマギシヤチホコ  
7 ♂, H. T.; 2 ♂, N. H.; 2 ♂, 土橋秀行; 5 ♂ 1 ♀, 柴田直之;
- 3171 *Odontosia sieversii* (MENETRIES) シーベルスシヤチホコ  
1 ♂ 2 ♀, H. T.; 2 ♂, N. H.; 1 ♂, 土橋秀行; 3 ♂, 柴田直之;

NOCTUIDAE ヤガ科

- 3406 *Colocasia jezoensis* (MATSUMURA), sp. rev. ネグロケンモン  
1 ♂, H. T.; 1 ♂, N. H.;
- 3585 *Pseudopanolis takao* INADA, stat. rev. タカオキリガ  
1 ♂, N. H.; 1 ♂, 土橋秀行; 1 ♂ 1 ♀, 柴田直之;
- 3587 *Clavipalpura aurariae* (OBUERTHUR) キンイロキリガ  
1 ♂ 2 ♀, H. T.;
- 3591 *Orthosia evanida* (BUTLER) カバキリガ  
2 ♀, H. T.; 1 ♀, N. H.; 1 ♂, 柴田直之;
- 3592 *Orthosia aoyamensis* (MATSUMURA) アオヤマキリガ  
1 ♂ 1 ♀, H. T.; 1 ♀, N. H.;
- 3595 *Orthosia paromoea* (HAMPSON) ブナキリガ  
1 ♂ 1 ♀, H. T.;
- 3601 *Orthosia munda* (DENIS & SCHIFFERMULLER) スモモキリガ  
2 ♂, H. T.;
- 3602 *Orthosia odiosa* (BUTLER) チャイロキリガ  
1 ♀, N. H.;

- 3603 *Orthosia coniertota* (FILIPJEV) ゴマフキリガ  
2 ♀, H. T;
- 3608 *Orthosia carnipennis* (BUTLER) アカバキリガ  
1 ♂ 1 ♀, H. T; 1 ♂, N. H;
- 3665 *Brachionycha nubeculosa jezoensis* MATSUMURA エゾモクメキリガ  
2 ♂, H. T; 1 ♂, N. H;
- 3677 *Xylena formosa* (BUTLER) キバラモクメキリガ  
1 ♀, H. T;
- 3683 *Lithophane plumbealis* (MATSUMURA) モンハイイロキリガ  
1 ♀, H. T; (埼玉県初記録)
- 3684 *Lithophane venusta* (LEECH) ウスアオキリガ  
1 ♀, H. T; 1 ♂, N. H;
- 3686 *Lithophane socaia* (HUFNAGEL) ナカグロホソキリガ  
1 ♀, H. T;
- 3689 *Eupsilia transversa* (HUFNAGEL) エゾミツボシキリガ  
1 ♀, H. T; (埼玉県初記録)
- 3694 *Eupsilia strigifera* BUTLER ヨスジキリガ  
1 ♂ 1 ♀, H. T;
- 3706 *Conistra grisescens* DRAWUDT ミヤマオビキリガ  
1 ♂ 2 ♀, H. T;
- 3708 *Conistra unimacula* SUGI ホシオビキリガ  
1 ♀, H. T;
- 3817 *Euplexia splendida* SUGI シロモンアカガネヨトウ  
2 ex., H. T;



春先のヤマムガ科「エゾヨツメ」1996年4月27日(大滝村・東大演習林)



春のキリガ「タカオキリガ」1996年4月27日 (大滝村・東大演習林)

引用文献

市川和夫 (1962) 秩父地方の蛾類に関する研究. 秩父科学博物館研究報告 11 : 57-96

(はぎわら のぼる 〒152 春日部市梅田 614-1)  
(ついひじ ひでお 〒333 川口市前川 4-13-2)  
(つちはし ひでゆき 〒177 練馬区関町南 4-3-20)  
(しばた ないゆき 〒350-11 川越市藤倉 390-8 アイシティ101)

## マレーゼ・トラップに入った蛾類

萩原 昇・南部敏明

以下の報告は、1996年7・8月に南部敏明氏がハチ類を採集するために仕掛けたマレーゼ・トラップによって得られた蛾類をまとめたものである。報告にあたり、貴重な採集品を提供していただいた同氏に感謝し上げる。なお、ここに記録した個体以外に種名が不明の小蛾類が80個体ほどあるが、同定が困難なため除外した。

## 凡例

1. 学名および種の配列は日本産蛾類大図鑑(1982)による。
2. 記録は、以下のように記述した。

カタログ番号(日本産蛾類大図鑑で使用している整理番号)、和名、記録地:記録個体数、記録日。

- 1) 記録地はいずれも埼玉県寄居町の鉢形城跡又は男衾(トンボ公園)である。
- 2) 記録個体数に関しては、雌雄それぞれの個体数が分かっている場合には、♂♀の記号の前に数字で示した。雌雄が不明の記録個体については、ex. を付した。
- 3) 記録者は、全て南部敏明である。(記述を省略)

## ハマキガ科

- 0511 ヨモギネムシガ 鉢形城跡: 1♂, 1996.07.28.  
0584 ヨツスジヒメシンクイ 鉢形城跡: 2 ex., 1996.07.28.

## メイガ科

- 1519 シバツトガ 鉢形城跡: 2 ex., 1996.07.28.  
1521 ツトガ 鉢形城跡: 1♀, 1996.07.28.  
1655 スカシノメイガ 男衾トンボ公園: 1 ex., 1996.08.04.  
1657 クワノメイガ 鉢形城跡: 1♂, 1996.07.31.  
1695 ワモンノメイガ 男衾トンボ公園: 1 ex., 1996.08.04.

## コケガ科

- 3356 クロスジシロコケガ 男衾トンボ公園: 1♀, 1996.08.04.

## ヤガ科

- 3493 カブラヤガ 鉢形城跡: 3♀, 1996.07.28, 2♀, 1996.07.31.  
3635 マメチャイロヨトウ 鉢形城跡: 1♂, 1996.07.31.  
3646 クサシロキヨトウ 鉢形城跡: 2♂3♀, 1996.07.28, 1♀, 1996.07.31.  
3844 スジキリヨトウ 鉢形城跡: 1♂1♀, 1996.07.28, 2♀, 1996.07.31, 男衾トンボ公園: 1♀, 1996.08.04.  
3859 ヒメサビスジヨトウ 鉢形城跡: 2♀, 1996.07.28, 1♀, 1996.07.31.  
3912 チャオビヨトウ 鉢形城跡: 1 ex., 1996.07.28.  
3930 フタテンヒメヨトウ 鉢形城跡: 1 ex., 1996.07.28, 男衾トンボ公園: 1996.08.04.  
4060 ヒメネジロコヤガ 鉢形城跡: 1♂, 1996.07.28, 1♀, 1996.07.31.  
4096 モンキコヤガ 鉢形城跡: 1♂, 1996.07.28.  
4104 フタオビコヤガ 男衾トンボ公園: 1 ex., 1996.08.04.  
4109 キマダラコヤガ 鉢形城跡: 1♀, 1996.07.31.  
4453 クロキシタアツバ 鉢形城跡: 1♂, 1996.07.28, 1♂, 1996.07.31.  
4499 ソトグロアツバ 鉢形城跡: 1♂, 1996.07.28.

(はぎわら のぼる 〒152 春日部市梅田 614-1)

(なんぶ としあき 〒369-12 大里郡寄居町桜沢 2397-2)

長野県にてヒメアケビコノハとクロモンシタバを採集

柴田 直之

筆者は、長野県浅間山麓にて、迷蛾のヒメアケビコノハとクロモンシタバを採集したので報告する。

・ヒメアケビコノハ *Othreis fullonia* (Clarck) 1ex.

1996年6月17日、長野県嬭恋村大沢川上流

・クロモンシタバ *Ophiusa tirhaca* (Cramer) 1ex.

1996年6月17日、長野県嬭恋村大沢川上流

両種とも発電機による灯火採集で得たものである。

また、同日、同所にて、ツキワクチバ 1ex.、ネジロフトクチバ 2ex.も採集している。ツキワクチバは比較的鮮度が良いもの1ex.のみを採集しているが、灯火に飛来した数は3～5頭程であった。

末筆ながら、発表を勧められた矢野高広氏に厚くお礼申し上げる。

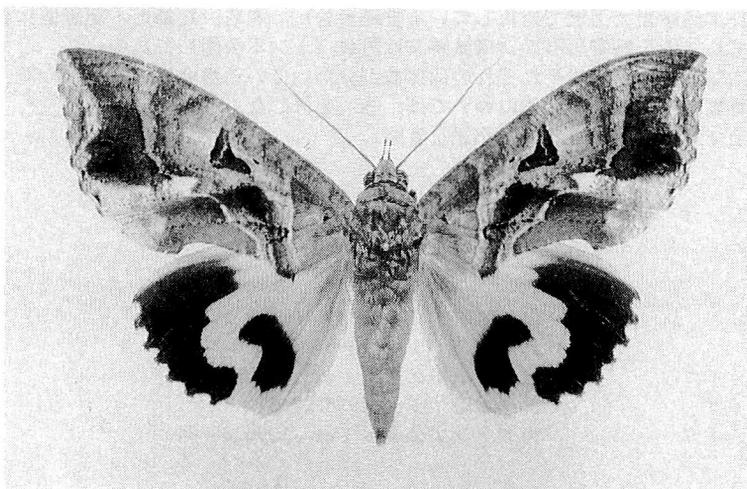


図1 1996年6月17日、長野県嬭恋村大沢川上流で採集したヒメアケビコノハ *Othreis fullonia* (Clarck)

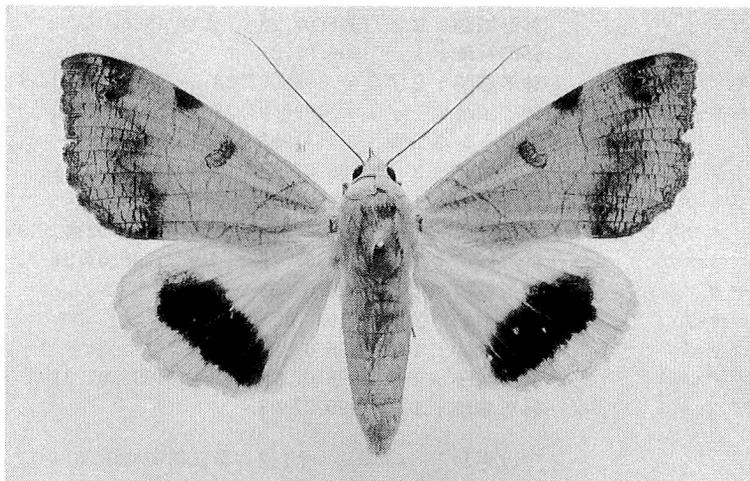


図2 1996年6月17日、長野県嬭恋村大沢川上流で採集したクロモンシタバ *Ophiusa tirhaca* (Cramer)

(しばた なおゆき 〒350-11 川越市藤倉390-8-101)

.....

## 埼玉県南部地域の蛾類

築比地 秀夫

.....

県南地域の蛾相については、大宮台地南端の蛾として、並木彬雄氏が、寄せ蛾記 21, 22号 (1978~'79) に発表している。その後、会として1988~'89年にかけて見沼田んぼ週辺の調査を行ったが、調査区域が広すぎたため会員の力が分散して、立ち消えになってしまった。大宮地区を担当していた萩原昇氏は、春日部市や久喜市で調査した種類を含め、埼玉県東部地域の蛾として寄せ蛾記71, 72, 75号に報告している。筆者は、川口地区、(川口市行衛、自然の家)を中心に調査してきたが、1989年以降も糖蜜や樹液での採集を続けてきた、浦和市南部領辻や大崎、下山口新田を含め埼玉県南部地域の蛾として報告しておく。

なお、記載済みと記されている種は寄せ蛾記78号に発表したもので、学名および配列は日本産蛾類大図鑑による。

### TORTRICIDAE ハマキガ科

- 89 *Archips audax* RAZOWSKI アトキハマキ  
川口市行衛 1989. 5. 13 1ex.
- 108 *Hoshinoa adumbratana* (WALSINGHAM) オオフタスジハマキ  
川口市行衛 1988. 10. 15. 1♀
- 126 *Homona magnanima* DIAKONOFF チャハマキ  
川口市行衛 1988. 10. 15 2♂ 1♀
- 557 *Rhopobota naevana* (HUBNER) クロネハイイロヒメハマキ  
川口市行衛 1988. 10. 6. 1ex.

### ALUCITIDAE ニジュウシトリバガ科

- 1325 *Alucita spilodesma* (MEYRICK) ニジュウトリバ  
川口市行衛 1988. 10. 6. 1ex.

### ZYGAENIDAE マダラガ科

- 1343 *Pidorus glaucopis* (DRURY) ホタルガ  
川口市行衛 1988. 9. 10. 1♂

### LIMACODIDAE イラガ科

- 1375 *Scopelodes contracta* WALKER ヒメクロイラガ  
川口市行衛 記載済み
- 1376 *Monema flavescens* WALKER イラガ  
川口市行衛 1988. 6. 12. 2ex.
- 1378 *Microleon longipalpis* BUTLER テングイラガ  
川口市行衛 1989. 5. 13. 1ex.
- 1384 *Latoia sinica* (MOORE) クロシタアオイラガ  
川口市行衛 1989. 6. 12. 1ex.

### THYRIDIAE マドガ科

- 1399 *Striglina cancellata* (CHRISTOPH) アカジマドガ  
川口市行衛 1988. 6. 11. 1ex. 1989. 5. 13. 1ex.

### PEYRALIDAE メイガ科

- 1458 *Chilo luteellus* (MOTSCHULSKY) ヨシツトガ  
川口市行衛 1988. 7. 9. 1♀

- 1459 *Chilo suppressalis* (WALKER) ニカメイガ  
川口市行衛 1988. 5. 14. 1♀
- 1469 *Calamotropha paludella* (HUBNER) シロツトガ  
川口市行衛 1988. 9. 10. 1ex.
- 1562 *Hymenia recurvalis* (FABRICIUS) シロオビノメイガ  
浦和市南部領辻 1994. 9. 18. 1ex.
- 1574 *Cnaphalocrocis medinalis* (GUENEE) コブノメイガ  
浦和市南部領辻 1994. 9. 18. 1♂
- 1596 *Conogethes punctiferalis* (GUENEE) モモノゴマダラノメイガ  
浦和市大崎 1990. 9. 6. 1ex.
- 1616 *Goniorhynchus butyrosa* (BUTLER) クロヘリキノメイガ  
川口市行衛 記載済み
- 1648 *Palpita nigropunctalis* (BREMER) マエアカスカシノメイガ  
浦和市大崎 1989. 3. 12. 1♀
- 1692 *Maruca testulalis* (HUBNER) マメノメイガ  
川口市行衛 1988. 10. 15. 1♀
- 1695 *Nomophila noctuella* (DENIS & SCHIFFERMULLER) ワモンノメイガ  
川口市行衛 1988. 10. 15. 1ex.
- 1735 *Sclerocona acutella* (EVERSMANN) タテシマノメイガ  
川口市行衛 1988. 5. 21. 1ex.
- 1762 *Ostrinia scapularis* (WALKER) フキノメイガ  
川口市行衛 1988. 5. 14. 1ex.
- 1765 *Aurorobotys aurorina* (BUTLER) フチムラサキノメイガ  
川口市行衛 1988. 5. 21. 1ex.
- 1806 *Nymphula responsalis* (WALKER) ヒメマダラミスジノメイガ  
浦和市南部領辻 1994. 9. 18. 2exs.
- 1852 *Teliphasa amica* (BUTLER) オオフトメイガ  
川口市行衛 1988. 7. 9. 1♀
- 1864 *Craneophora ficki* CHRISTOPH ナカムラサキフトメイガ  
川口市行衛 1988. 5. 21. 1♂
- 1886 *Orthopygia glaucinalis* (LINNAEUS) フタスジシマメイガ  
川口市行衛 1988. 10. 8. 1ex.
- 1903 *Endotricha kuznetzovi* WHALLEY キモントガリメイガ  
川口市行衛 1988. 6. 11. 1ex. 浦和市南部領辻 1994. 9. 18. 2exs.
- 1977 *Calguia defigualis* WALKER ウスアカムラサキマダラメイガ  
川口市行衛 1988. 5. 21. 1ex.

DREPANIDAE カギバガ科

- 2104 *Macrauzata maxima* INOUE スカシカギバ  
川口市行衛 1988. 10. 15. 1♂ 1♀
- 2105 *Oreta pulchripes* BUTLER アシベニカギバ  
川口市行衛 1988. 9. 10. 1♀

THYATIRIDAE トガリバガ科

- 2125 *Tethea ampliata* (BUTLER) オオバトガリバ  
川口市行衛 1988. 6. 11. 1♂
- 2138 *Epipsestis nikkoensis* (MATSUMURA) ニッコウトガリバ  
川口市行衛 記載済み
- 2146 *Neoploca arctipennis* (BUTLER) マユミトガリバ  
浦和市大崎 1989. 3. 12. 2exs.

GEOMETRIDAE シャクガ科

- 2156 *Inurois fletcheri* INOUE ウ斯巴フユシヤク

- 浦和市大崎 1989. 3. 12. 1♂
- 2175 *Agathia carissima* BUTLER チズモンアオシヤク  
川口市行衛 1988. 8. 13. 1♀ 1989. 5. 13. 1♂
- 2185 *Geometra dieckmanni* GRAESER カギシロスジエダシヤク  
川口市行衛 1986. 5. 13. 1♂
- 2245 *Timandra griseata* PETERSEN ベニスジヒメシヤク  
川口市行衛 1988. 5. 14. 1♀
- 2246 *Timandra comptaria* WALKER コベニスジヒメシヤク  
川口市行衛 1988. 9. 10. 1♀
- 2358 *Esakiopte ryx volitans* (BUTLER) ウスベニスジナミシヤク  
浦和市大崎 1989. 3. 12. 4exs.
- 2426 *Idioteephria amelia* (BUTLER) モンキナミシヤク  
浦和市大崎 1989. 3. 12. 1ex.
- 2445 *Photoscotosia atrostigata* (BREMER) ネグロウスベニナミシヤク  
川口市行衛 1989. 5. 13. 1ex.
- 2481 *Dysstroma citrata* (LINNAEUS) ツマキナカジロナミシヤク  
川口市行衛 1989. 5. 13. 1ex.
- 2662 *Ninodes watanabei* INOUE ウチムラサキヒメエダシヤク  
川口市行衛 1989. 5. 13. 1ex.
- 2688 *Synegia esther* BUTLER クロハグルマエダシヤク  
川口市行衛 1988. 5. 21. 1♀ 1989. 5. 13. 1♂
- 2783 *Ascotis selenaria* (DENIS & SCHIFFERMULLRE) ヨモギエダシヤク  
川口市行衛 1989. 5. 13. 1♂
- 2848 *Wilemania nitobei* (NITOBE) ニトベエダシヤク  
浦和市大崎 記載済み
- 2849 *Pachyligia dolosa* BUTLER アトジロエダシヤク  
浦和市大崎 1989. 3. 12. 4exs.
- 2857 *Bizia aexaria* WALKER ツマトビキエダシヤク  
川口市行衛 1988. 6. 11. 1♂
- 2870 *Chariaspilates formosaria* (EVERSMANN) ギンスジエダシヤク  
川口市行衛 記載済み
- 2877 *Nothomiza formosa* (BUTLER) マエキトビエダシヤク  
川口市行衛 1988. 5. 14. 1♀
- 2885 *Odontopera arida* (BUTLER) エグリズマエダシヤク  
川口市行衛 1988. 4. 16. 1♂
- 2931 *Ourapteryx nivea* BUTLER ウスキツバメエダシヤク  
川口市行衛 1988. 10. 8. 2♂
- URANIIDAE ツバメガ科
- 2937 *Acropteris iphiata* (GUENEE) ギンツバメ  
川口市行衛 記載済み
- LASIOCAMPIDAE カレハガ科
- 2975 *Dendrolimus spectabilis* (BUTLER) マツカレハ  
川口市行衛 1988. 9. 10. 1♀
- 2970 *Philudoria albomaculata* (BUTLER) タケカレハ  
川口市行衛 1988. 9. 10. 1♀ 1988. 10. 15. 1♂
- 2981 *Malacosoma neustria* (LINNAEUS) オビカレハ  
川口市行衛 1988. 9. 10. 1♀ 1989. 6. 12. 1♂
- EUPTEROTIDAE オビガ科
- 2982 *Apha aequalis* (FELDER) オビガ  
川口市行衛 1988. 6. 9. 1♂

- BOMBYCIDAE カイコガ科
- 2984 *Bombyx mandarina* (MOORE) クワコ  
川口市行衛 1988. 8. 13. 1♂ 1♀
- SATURNIDAE ヤママユガ科
- 2996 *Caligula boisduvalii* (EVERSMANN) ヒメヤママユ  
川口市行衛 1988. 11. 6. 1♀
- SPHINGIDAE スズメガ科
- 3009 *Hyloicus caliginus* BUTLER クロスズメ  
川口市行衛 1988. 6. 4. 1♂
- 3018 *Clanis bilineata* (WALKER) トビイロスズメ  
川口市行衛 1988. 9. 10. 1♀
- 3020 *Marumba gaschkewitschii* (BREMER & GREY) モモスズメ  
浦和市南部領辻 1989. 6. 23. 1♀
- 3057 *Deilephila elpenor* (LINNAEUS) ベニスズメ  
浦和市下山口新田 1990. 6. 7. 1♂ 川口市行衛 1988. 6. 11. 1♂
- 3065 *Theretra japonica* (Boisduval) コスズメ  
浦和市下山口新田 1990. 6. 10. 1♂ 川口市行衛 1989. 6. 12. 1♂
- NOTODONTIDAE シャチホコガ科
- 3074 *Stauropus fagi* (LINNAEUS) シャチホコガ  
浦和市下山口新田 1996. 6. 2. 幼虫採集 同7. 5. 1♂羽化
- 3082 *Quadricalcarifera cyanea* (LEECH) オオアオシャチホコ  
浦和市大崎 1989. 3. 12. 1♂
- 3113 *Phalera flavescens* (BREMER & GREY) モンクロシャチホコ  
川口市木曾呂金崎 1990. 8. 10. 1♂
- 3126 *Rabtales cristata* (BUTLER), comb. rev. セダカシャチホコ  
浦和市下山口新田 1996. 7. 6. 1♀
- LYMANTRIIDAE ドクガ科
- 3198 *Cifuna locuples* WALKER マメドクガ  
川口市行衛 1988. 9. 10. 2♂
- 3203 *Orgyia thyellina* BUTLER ヒメシロモンドクガ  
川口市行衛 1988. 6. 11. 1♀ 7. 9. 1♂
- 3205 *Laelia coenosa* (HUBNER) スゲドクガ  
川口市行衛 1988. 7. 9. 1♂
- 3218 *Lymantria dispar* (LINNAEUS) マイマイガ  
川口市行衛 1988. 6. 9. 1♂
- 3232 *Euproctis pulverea* (LEECH) ゴマフリドクガ  
川口市行衛 1988. 5. 21. 1♀
- ARCTIIDAE ヒトリガ科
- 3298 *Miltochrista pulchra* BUTLER ゴマダラベニコケガ  
川口市行衛 1988. 7. 9. 1♀ 1988. 9. 10. 1♂
- 3300 *Stigmatophora flava* (BREMER & GREY) ゴマダラキコケガ  
川口市行衛 1988. 6. 9. 1ex. 1988. 9. 10. 1♀
- 3309 *Spilosoma seriatopunctata* MOTSCHULSKY スジモンヒトリ  
川口市行衛 1988. 5. 21. 1♂ 1988. 9. 10. 1♀ 川口市東内野 1990. 5. 5. 1♀
- 3313 *Spilosoma subcarneum* WALKER オビヒトリ  
川口市行衛 1988. 5. 14. 1♂ 1988. 8. 13. 1♂
- 3322 *Spilosoma lubricipeda* (LINNAEUS) キハラゴマダラヒトリ  
川口市行衛 1988. 7. 9. 1♀
- 3323 *Spilosoma niveum* (MENETRIES) シロヒトリ  
川口市行衛 1988. 9. 10. 1♀

## CTENUCHIDAE カノコガ科

- 3394 *Amata fortunei* (ORZA) カノコガ  
川口市行衛 1988. 8. 21. 1♂
- NOCTUIDAE ヤガ科
- 3401 *Anacronicta caliginea* (BUTLER) コウスベリケンモン  
川口市行衛 1988. 6. 11. 1♂ 2♀
- 3442 *Viminia rumicis* (LINNAEUS) ナシケンモン  
川口市行衛 1988. 6. 11. 1♂ 1988. 7. 9. 1♀ 9. 10. 1♂
- 3472 *Stenoloba manleyi* (LEECH) ウンモンキノコヨトウ  
川口市行衛 記載済み
- 3499 *Ochropleura plecta* (LINNAEUS) マエジロヤガ  
川口市行衛 1988. 5. 14. 2♂
- 3504 *Hermonassa cecilia* BUTLER クロクモヤガ  
川口市行衛 1988. 10. 15. 1♀
- 3520 *Diarsia deoarca* (BUTLER) コウスチャヤガ  
川口市行衛 1988. 10. 15. 2♂
- 3522 *Diarsia canescens* (BUTLER) オオバコヤガ  
川口市行衛 1988. 5. 14. 1♂
- 3535 *Xestia c-nigrum* (LINNAEUS) シロモンヤガ  
川口市行衛 1988. 8. 13. 1♂
- 3544 *Naenia contaminata* (WALKER) クロギシギシヤガ  
川口市行衛 1988. 5. 14. 1♂
- 3601 *Orthosia munda* (DENIS & SCHIFFERMULLER) スモモキリガ  
浦和市大崎 1989. 3. 12. 1♀
- 3610 *Mythimna turca* (LINNAEUS) フタオビキヨトウ  
川口市行衛 1988. 9. 10. 1♂
- 3619 *Aletia placida* (BUTLER) クロシタキヨトウ  
川口市行衛 1988. 9. 10. 2♂
- 3640 *Leucania insecuta* WALKER ノヒラキヨトウ  
川口市行衛 1988. 5. 14. 2♂
- 3677 *Xylena formosa* (BUTLER) キバラモクメキリガ  
浦和市大崎 1989. 11. 23. 1♂
- 3694 *Eupsilia quadrilinea* (LEECH) ヨスジキリガ  
浦和市大崎 記載済み
- 3706 *Conistra grisescens* DRAUDT ミヤマオビキリガ  
浦和市大崎 1989. 5. 12. 1♀
- 3707 *Conistra fletcheri* SUGI テンスジキリガ  
浦和市大崎 1989. 11. 23. 1♀ 1990. 12. 2. 3♂ 1♀
- 3708 *Conistra unimacula* SUGI ホシオビキリガ  
浦和市大崎 1989. 11. 26. 5exs. 1990. 12. 2. 3exs.
- 3717 *Telorta acuminata* (BUTLER) ウスキトガリキリガ  
川口市行衛 1988. 11. 6. 1♂ 浦和市大崎 1989. 11. 26. 1♂
- 3719 *Telorta divergens* (BUTLER) ノコメトガリキリガ  
浦和市大崎 1989. 11. 26. 2♂ 1990. 12. 2. 1♀
- 3771 *Xylomoia fusei* SUGI イチモンジヒメヨトウ  
南部領辻 1989. 5. 4. 1♀
- 3785 *Archanara resoluta* HAMPSON ハガタウスキヨトウ  
川口市行衛 1988. 7. 9. 1♀
- 3809 *Euplexia lucipara* (LINNAEUS) アカガネヨトウ  
川口市行衛 1988. 5. 14. 1♂

- 3824 *Dypterygia caliginosa* (WALKER) クロモクメヨトウ  
浦和市下山口新田 1991. 6. 5. 2♀
- 3828 *Trachea atriplicis* (LINNAEUS) シロスジアオヨトウ  
浦和市下山口新田 1992. 6. 25. 1♀ 1993. 7. 16. 1♂
- 3844 *Spodoptera depravata* (BUTLER) スジキリヨトウ  
川口市行衛 1988. 7. 9. 1♀
- 3859 *Athetis stellata* (MOORE) ヒメサビスジヨトウ  
川口市行衛 1988. 5. 14. 1♀ 1988. 10. 8. 1♂ 1989. 5. 13. 1♂
- 3866 *Amphipyra monolitha* GUENEE オオシマカラスヨトウ  
川口市行衛 1988. 7. 9. 1♂ 浦和市南部領辻 1992. 6. 25. 1♂
- 3868 *Amphipyra livida* (DENIS & SCHIFFERMULLER) カラスヨトウ  
川口市行衛 1988. 9. 10. 1♂ 1988. 11. 6. 1♀
- 3875 *Orthogonia sera* FELDES & FELDER ノコメセダカヨトウ  
浦和市下山口新田 1992. 6. 16. 1♂ 1992. 6. 25. 1♀
- 3881 *Cosmia affinis* (LINNAEUS) ニレキリガ  
川口市行衛 1988. 7. 9. 1♀ 1988. 10. 15. 2♂
- 3912 *Niphonyx segregata* (BUTLER), comb. n. チャオビヨトウ  
川口市行衛 1988. 6. 11. 1♂ 1♀
- 3930 *Hadjina bigttula* (MOTSCHULSKY)N フタテンヒメヨトウ  
川口市行衛 1988. 5. 21. 1♀
- 3951 *Sphragifera sigillata* (MENETRIES) マルモンシロガ  
浦和市南部領辻 1994. 9. 18. 1ex.
- 4015 *Corgatha nitens* (BUTLER) シマフコヤガ  
川口市行衛 1988. 6. 11. 2exs.
- 4074 *Lithacodia distinguenda* (STAUDINGER) シロマダラコヤガ  
川口市行衛 1989. 5. 13. 1♀
- 4104 *Naranga aenescens* MOORE フタオビコヤガ  
川口市行衛 1988. 9. 10. 1ex.
- 4134 *Erythroplusia rutilifrons* (WALKER) ギンスジキンウワバ  
川口市行衛 1988. 10. 15. 1♀
- 4170 *Anadevidia peponis* (FABRICIUS) ウリキンウワバ  
川口市行衛 1988. 10. 15. 1♀
- 4165 *Chrysodeixis eriosoma* (DOUBLEDAY) イチジクキンウワバ  
川口市行衛 1988. 8. 13. 1♂ 浦和市南部領辻 1994. 9. 18. 1♂
- 4181 *Catocala fulminea* (SCOPOLI) ワモンキシタバ  
浦和市南部領辻 1988. 7. 6. 1♂
- 4188 *Catocala actaea* FELDER & ROGENHOFER コシロシタバ  
川口市木曾呂金崎 1990. 8. 18. 1♂
- 4197 *Catocala patala* FELDER & ROGENHOFER キシタバ  
川口市木曾呂金崎 1990. 6. 22. 1♀
- 4215 *Parallelia arctotaenia* GUENEE ホソオビアシプトクチバ  
川口市行衛 1988. 9. 10. 1♂
- 4222 *Mocis undata* (FABRICIUS) オオウンモンクチバ  
川口市行衛 1988. 9. 10. 1♂
- 4224 *Mocis ancilla* (WARREN) ニセウンモンクチバ  
川口市行衛 1988. 5. 14. 1♂
- 4239 *Lagoptera junio* (DALMAN) ムクゲコノハ  
浦和市下山口新田 1989. 8. 29. 1♀
- 4241 *Arcte coerulea* (GUENEE) フクラスズメ  
浦和市南部領辻 1989. 8. 29. 1♂

- 4249 *Perinaenia accipiter* (FELDER & ROGENHOFER) モクメクチバ  
川口市行衛 1989. 5. 12. 1♀
- 4276 *Oraesia excavata* (BUTLER) アカエグリバ  
川口市行衛 1988. 8. 13. 1♂
- 4278 *Plusidonta casta* (BUTLER) マダラエグリバ  
川口市行衛 1989. 5. 13. 2exs.
- 4292 *Erygia apicalis* GUENEE アカテンクチバ  
川口市行衛 1988. 5. 14. 1♂
- 4295 *Sypnoides picta* (BUTLER) シラフクチバ  
浦和市大崎 1996. 7. 6. 1♀
- 4310 *Aedia leucomelas* (LINNAEUS) ナカジロシタバ  
川口市行衛 1988. 9. 10. 1♂ 1988. 10. 8. 1♂
- 4331 *Arytrura musculus* (MENETRIES) ソトジロツマキリアツバ  
川口市行衛 1988. 6. 11. 1ex 1988. 9. 10. 2exs.
- 4396 *Colobochyla salicalis* (DENIS & SCHIFFERMULLER) キンスジアツバ  
川口市行衛 1988. 5. 21. 1♀
- 4454 *Hypena trigonalis* (GUENEE), comb.n. タイワンキシタアツバ  
浦和市南部領辻 1994. 9. 18. 1ex.
- 4486 *Bomolocha zilla* (BUTLER) シラクモアツバ  
川口市行衛 1989. 5. 13. 1♀
- 4499 *Hydrillodes repugnalis* (WALKER) ソトウスグロアツバ  
川口市行衛 1989. 5. 13. 1♂
- 4532 *Simplicia nippona* (BUTLER) オオアカマエアツバ  
1988. 5. 21. 1ex. 1989. 5. 13. 1ex.
- 4545 *Zanclognatha obliqua* STAUDINGER, comb. rev. ハスオビアツバ  
川口市行衛 記載済み
- 4547 *Zanclognatha tarsipennalis* (TREITSCHKE) ヒメコブヒガアツバ  
川口市行衛 1989. 5. 13. 1ex.
- 4562 *Herminia tarsicrinalis* (KNOCH) トビスジアツバ  
川口市行衛 1988. 5. 14. 1♂
- 4563 *Hipoepa fractalis* (GUENEE), comb.rev. オオシラナミアツバ  
浦和市南部領辻 1994. 9. 18. 1ex.

(ついひじ ひでお 〒333 川口市前川 4-13-2)

.....

## サカハチチョウの記録を含む狭山湖周辺の観察 (続)

星野 正博

.....

表記タイトル「サカハチチョウの記録を含む狭山湖周辺の観察」で本誌第80号(1996年8月1日発行)に掲載した内容について、追記が必要となったので、(続)として報告する。

### 追記

その後、サカハチチョウの文献記録を発見した。再訪したので追記する。

埼玉県昆虫誌のため分布記録をデジタルデータ化(早い話がパソコンへの入力地獄:何と埼玉の蝶文献は1000件を遥かに越える)のさなか、次のようなサカハチチョウの記録を見いだしたことにより、初記録ではなかったことになる。

- 1) 会田稔・田中之夫・大野直一(1977) 宮寺地区南部及び狭山丘陵北西部の蝶 羽化(6):60-65  
採集データはないが「5年くらい前にはたまに見られたが、現在では採集は不可能と思われる」と記述されている。
- 2) 横田光邦(1991) 狭山湖の注目すべき3種の昆虫 おとしぶみ (11):56  
サカハチチョウ 1♂ 1990.07.14 所沢市三ヶ島狭山湖

採集地点は、記述を読むと私の場合とほぼ同一地点のようである。

1996年7月15日に再訪し、所沢市堀之内から入り、狭山湖西端の間門市宮寺字柳澤(近頃フェンスに詳細な地番表示がされた)、フェンスに沿って所沢市勝楽寺、瑞穂町石畑を歩いた。当日も20種ほどの蝶を目撃したが、その中にサカハチチョウの姿はなかった。

(ほしの まさひろ 〒338 与野市下落合 5-14-3

1)

.....

## 埼玉県内の甲虫の記録

柴田 直之

.....

筆者が把握している埼玉県内の甲虫の採集記録についてまとめてみた。

- ホソツヤルリクワガタ 1♂ 1995年10月14日 大滝村中津川林道、標高1100m付近 柴田直之leg.
- ツヤハダクワガタ 5幼虫 1995年10月7日 大滝村中津川林道、標高1100m付近 柴田直之leg.
- コロハナムグリ 1ex. 1996年6月3日 入間市阿須 柴田直之leg.

1996年6月20日 大滝村中津川林道、標高1050m地点(灯火)柴田直之leg.

- ヨツボシヒラテシテムシ 1ex. ヒメオビオオキノコムシ 1ex.
- オオモンキゴミムシダマシ 1ex. ヒメツチハンミョウ 1♀

なお、ヒメツチハンミョウについては、灯火採集中、午後9時頃、地面を歩いていたのを採集したものである。灯火に誘われた訳ではないと思うが、夜間の活動例ということで、併せて報告する。

(しばた なおゆき 〒350-11 川越市藤倉390-8-101)

.....

## 双六岳登山記 (1996年)

小野寺 博昭

.....

〔第1日〕 7月29日 (月) 晴れ、夕刻一時雨

午前0時30分に我が家を出て、川口市まで築比地秀夫氏を迎えに行く。既に準備を整えて待っていた築比地氏と1時35分に、2年連続の北アルプス双六岳に向けて出発。昨年は8月1日から3日の日程で双六岳に登ったが、悪天候に見舞われて、奇跡的にタカネヒカゲ1匹を観察するにとどまった。そこで、どうしてもタカネヒカゲが実際に翔ぶ姿を見たいのと何とか写真を撮りたいということで、築比地氏に無理を言い、又々の双六岳行きとなったのだ。

午前2時30分に八王子I.C.から中央道に入り、20分後に談合坂S.A.に着き、小休止。昨年假眠したハケ岳P.A.を通過して4時15分に諏訪湖S.A.に到着。今回はここで仮眠をとることにした。

午前7時に目覚めて行動開始。20分後に松本I.C.を出て野麦街道に入り、上高地とは反対側の安房峠を越え、新平湯温泉、栴尾温泉等を経て、奥飛騨温泉郷・新穂高温泉には午前9時10分に着いた。この標高は1100mほどだ。

9時20分にいよいよ登山開始。昨年より40分ほど早いスタートである。途中に風穴があり、岩の間から冷気が吹き出して来て、クーラーとは異なって、この自然の冷気はとても気持ちが良い。

ワサビ平小屋には午前10時40分に到着。この標高は1480mだからまだ380mしか稼いでいない。25分ほど休憩の後、再び登り始め、登山口から少し行った昨年オオイチモンジを撮影した左俣谷の河原を通過しようとする、大きい石に背筋をシャキッと伸ばした姿勢でどっかり腰を下ろしている人物に目が行った。先方もこちらを見ている。何と奈良県の森井久夫氏ではないか！ オオゴマシジミを狙って10年前の1986年8月3日に奥鬼怒へ出掛けた折りに手白沢温泉で相部屋となり、意気投合し(この日、森井氏は当時この地では数少なかったオオゴマシジミを見事採集されていたが、自分は採れなかった。その時見せて戴いた三角紙に入ったオオゴマシジミが自分の初めて見たオオゴマシジミである)、翌々年の1988年3月26日、関西出張の時に大阪でお会いし、歓待して戴いた。

その後文通は続いていたが、森井氏ご本人とお会いするのは、その時以来だから、実に8年振りである。久闊を叙して慌ただしく別れを告げ、汗をかきながら再び黙々と歩を進める。

12時10分に秩父沢の谷に到着。雪渓を渡って来る涼風が何とも心地良い。正に天然クーラーである。ここで大休止をとることにして昼食と相成る。食後に築比地氏が湯を沸かし、紅茶を水筒に詰めて迸る沢の水に浸す。この冷たい水に10分足らずの間、浸しておいただけで、忽ちアイス・ティーが出来上がった。

1時間05分の休憩の後、この標高1700m余の場所を後にする。目的地の双六岳まではまだ1000m以上登らなければならない。途中で水が欲しくなったが、秩父沢でほんの少し給水しただけなので自分の水筒には既に水がない。築比地氏が雪渓の下の手が痺れるような小さい流れを掘り、小石と砂を掻き集めて天然の濾過装置を作り、水を確保してくれた。

ここに至る途中の蝶相は極めて貧弱で、ヤマキマダラヒカゲ、クロヒカゲを散見する程度。

シシウドが原を越えて、今日宿泊する標高2300mの鏡平小屋には15時25分に着いた。1泊2食付きで¥7,800である。その直後に雨が強く降り出したので、実にタイミング良く到着したものだ。最初のうちは前になり後になりしていた親子4人連れはおそらく、ぐっしょり雨に濡れてしまったことだろう。

「お部屋に案内します。」と山小屋のおじさんは言うが、蚕棚で三つの布団に4人が寝る実態を知っているので、「お部屋」と聞いて何やらおかしかった。今日は、昨年はまだ建設途中で1階しか使えなかった新しい小屋の3階(？、梯子で登る蚕棚の3段目で、真っ直ぐ立つと勿論頭をぶつける)である。

17時半頃から夕食をとると、文明と隔絶された山小屋のこと、後は眠るだけである。

〔第2日〕7月30日（火）晴れ後曇り、夕刻から雨

朝食を済ませた後、朝6時10分に鏡平を出発。双六岳まであと一息である。

午前8時25分に標高2500m余の双六小屋に辿り着いた。その直後に築比地氏がタカネヒカゲを見つけ、写真撮影をしている。自分はロープが張られている中まで入って写真を撮影し、1♀を観察。たっぷり卵を持っていそうな個体だった。

次いでいよいよ双六岳を目指し、タカネヒカゲの生息地であるガレた岩場を目指す。途中でカミキリを見付けたので、小堀文彦氏へのお土産にと思い、フィルム・ケースに入れる。昨年、築比地氏に言わせれば「神の思し召し」とのタカネヒカゲ1♂を悪天候の中で観察した目的地には午前9時30分に着いた。

天気は上々。目的のタカネヒカゲは10頭ほど目撃出来た。この蝶は低く、そしてかなり長い距離を翔ぶことが分かった。タカネヒカゲが降りたたと見られる場所まで行くが、ガレ場と同調して実に見づらく、そばへ行くと、翔ばれてしまう。ただいずれも余り鮮度の良い個体ではない。今夏は昨年より発生が早かったのかも知れない。

築比地氏がミヤマダイコンソウで吸蜜しているタカネヒカゲをカメラに収めていたが、その個体は新鮮だということで、自分を選んでくれたのだが、他の個体がちょっかいを出しに来たため、あっと言う間に2頭もつれて翔んで行ってしまった。

10頭内外の個体が目撃出来、安心しきっていたのだが、なにやら雲行きが怪しくなり出し、いつの間にか太陽が隠れ、気温が低下して来た。すると今まで翔んでいたタカネヒカゲもぱたっと姿を消してしまった。結局ここでは自分は1♂を観察したのみ…。何やら狐につままれたような気分である。そのうちに築比地氏がハイマツにしがみ付いていた、破損したタカネヒカゲを見つけたので、この個体を撮影。よくぞ見つけたものである。暫くは自分もハイマツやガレ場を探してみたが、とうとうタカネヒカゲを見つけることは出来なかった。谷底からどんどん雲が上がって来て、天候は悪化するばかり…。そろそろ諦めかけた12時30分に、ふわっと弱々しく翔ぶ蝶が目に入った。スワツと駆け付けると、ヒメキマダラヒカゲだった。随分高い所まで進出しているものだと感心する。心做しか平地の個体より一回り小さいように見える。

それでも更に暫く頑張ってみたが、天候が回復する気配はさらさらなく、期待も持てなかつたので、13時に下山開始。40分後に双六小屋に着いた。缶ビールを飲んでみると、破損したタカネヒカゲがふらふらと翔んで、他の登山客の服に止まった。こんな所でこんな姿を見ると、なんだかガツカリしてしまう。双六小屋周辺で2頭もタカネヒカゲを目撃したので、築比地氏と考えてみた。双六小屋の東側に槍ヶ岳方面に向かうルートがあるが、その西側斜面上方がガレており、そこで少ないながらタカネヒカゲが発生しているのではあるまいかということに落ち着いた。

明日午前中にもう一度挑戦する線も考えないではなかつたが「タカネヒカゲが翔ぶ姿を見たい」という願望と「タカネヒカゲを写真に撮りたい」という希望が、やや消化不良の感が否めない点は残るものの、一応満たされたことでもあり、当初の双六小屋泊りの予定を変更し、下山することにした。

14時に下山を開始。途中2600m付近のお花畑でベニヒカゲ1♂とクモマベニヒカゲ1♂を観察。なぜかベニヒカゲよりクモマベニヒカゲの方が新鮮だった。そうこうするうちにもうじき鏡平小屋という所でぽつぽつ雨が降り出した。一応雨具とリュック・カバーをリュックから取り出し、本格的に降って来た場合に備える。大した降りにならないうちに鏡平小屋に辿り着いた。双六小屋を出てからちょうど2時間後の16時ジャストだった。その直後から激しい雨になり、すぐ近くにドカンと山地独特の雷が落ちたことからすると、又もや際どいところでセーフといった感じである。

世の中、土・日を挟んで金・土・日・月と混むようで、今日は昨日より大分すいており、一つの布団に一人ずつ寝られた。夕食後、他にすることのない布団の中で考えてみたのだが、天気が悪い時は話にならないものの、天気が良い場合でも午前中の一時期まで晴れ、太陽が高く昇るに従って下界の水蒸気がどんどん上がって来て雲になり、曇ってしまっ、やがて15時か16時頃から雨になるというパターンのように思われた。従って、タカネヒカゲの生息地には午前6時頃に着いて待つのが正解ではないかと思った。

下界では考えられないような18時頃には眠りにつく。

## &lt;今日の採集種&gt;

- (1) 岐阜県吉城郡上宝村双六岳  
 ・タカネヒカゲ 1♂1♀ (観察)  
 ・ヒメキマダラヒカゲ 1♂ (観察)
- (2) 岐阜県吉城郡上宝村双六小屋・弓折岳鞍部間  
 ・ベニヒカゲ 1♂ (観察)  
 ・クモマベニヒカゲ 1♂ (観察)

## 〔第3日〕7月31日(水)晴れ後曇り

朝食後、外で築比地氏が湯を沸かし、コーヒーを喫してから朝6時40分に鏡平小屋を出発。この小屋に泊まった登山客としては最後から2番目のゆっくりスタートだ。折角シンドイ思いをしてこの高さまで登って来たので、この爽やかな山の涼気を捨てて下界に降りて行くのが残念だ。途中でホシガラスとイワヒバリを見る事が出来た。ホシガラスは普通のハシブトガラス等と較べると二回りくらい小さい感じである。イワヒバリはヒバリやスズメよりずっと大きく、むっちりして見える。人間にあまり警戒心を持っていないのか随分近くまで近寄って来る。

道すがら築比地氏が写真を撮りながら下ったので、1時間30分後の8時10分に秩父沢に着いた。本当にここは涼風が吹き抜けて、蘇生する思いである。昨日で味をしめ、今日も築比地氏が湯を沸かし、沢の手の切れるような冷たい水で水筒に入れた紅茶を冷やし、アイス・ティー(正確には「クール・ティー」?)で喉を潤す。30分の休憩を終えて再び下り始めてすぐに縁毛ピカピカ、ド完品のヒメシジミを見つけた。すかさず築比地氏が数カット、シャッターを切る。秩父沢を出て40分後の9時20分には登山口に到着した。この標高は1480mだから、昨日から1400m近く下って来たことになる。

更に25分ほど下って午前9時45分にワサビ平に至った。ここでは発生初期と思われる新鮮なコヒオドシが数頭降りたり来たりしており、築比地氏が盛んにシャッター・チャンスを狙うが、この蝶は、あと2mくらいに近づくと敏感に気配を察知するらしく、サッと飛び立ってしまう。何度かイタチごっこを繰り返して、水を撒いたりもしていたが、とうとう築比地氏も写真を撮ることを諦めた。

ホット・コーヒーを喫して再び歩きだし、暫く行ったところのシシウドでは数頭のヒメシジミが吸蜜していたが、こちらは秩父沢とは異なって随分鮮度が落ちる。小堀文彦氏へのお土産用にハナカミキリを数種採集する。それから少し先に行くと、道路側に大型のシジミチョウが一瞬姿を見せ、すぐにUターンして木立ちの奥に消えた。翔び方からしてオオゴマシジミに相違あるまいと思ひ、築比地氏に断って、ここで少し粘ってみることにした。まともなネットは新穂高温泉にある村営駐車場に置いて来た車の中で、「お散歩ネット」しか携行していない。足場は悪く、ネットは極端に短いので、よほど手元まで翔んで来てくれない限り、採集は難しい。向こうの方からあの独特な翔び方でオオゴマシジミが近づいて来るのが見えた。「おーい、こっちまで来てくれえ！」と叫びたいような気分だったが、その気持ちが通じたのか、吸い寄せられるようにそのオオゴマシジミは自分の方にやって来る。まるで蝶道を翔ぶような感じで、近づいて来る。もう少しだ。来た! それっ! お散歩ネットには新鮮なオオゴマシジミが収まっていた。

次いで5分後の10時55分には2頭目のオオゴマシジミが採れた。3頭目の個体は危険を感知したのか2mくらい手前まで来て、向きを変えた。4頭目の個体は途中までやって来るのが見えたが、目を凝らしてじっと注視していたにも拘らず、右にも左にも、そして上にも出て来ない。ひょっとすると姿を消した辺りにこちらからは見えない花があって吸蜜でもしているか静止しているかだろうと想像し、見通しの良い斜面から下の草丈の高い草地に下りて、草を掻き分けて見失った辺りに近づいて行った。すると予期した通り、そこにはクガイソウが1本あって、オオゴマシジミが吸蜜していた。そっと近づき、お散歩ネットで11時10分にこの日3頭目のオオゴマシジミをネットに入れることが出来た。又、元の位置に戻ると、この日5頭目の目撃個体が近づいて来たがネットの届かない所から上の道の方に翔び去ってしまった。

この辺が切り上げ時だと思ひ、道路が上がって行き、築比地氏に「このお散歩ネットで3頭採れたよ。」と言うと、「おお採れたの!」と言って喜んでくれた。築比地氏は「さっきオオゴマシジミが翔んで来て、あと30秒静止してくれれば写真が撮れたのに…」と残念がっていたが、どうや

ら先刻の5頭目の目撃個体だったらしい。

北海道で育った自分には懐かしいエゾハルゼミの鳴き声の中を再び下り始め、12時20分に新穂高温泉に辿り着いた。

<今日の採集種>

- (1) 岐阜県吉城郡上宝村秩父沢  
・ヒメシジミ 1♂（観察）
- (2) 岐阜県吉城郡上宝村ワサビ平  
・オオゴマシジミ 3♂♂

登山靴から普通の靴に履き替え、12時35分に新穂高温泉をスタート、元の道を辿る。国道158号線を安房峠・安曇村と東進し、途中、波田町の以前美味しい桃を買ったことがある果物屋さん立ち寄り、桃を求めようとしたが、ここおばさんの話では「今は端境期で桃はダメだ。」とのことで、桃はあるにはあるが甘くないそうだ。更に詳しく聞くと、桃の木は6年目の木で、まだ成長途上にあり、木に養分を取られるため、桃の実全体には養分が行き渡らず、上の枝になる実しか甘くならず、今ある桃は下の枝になったもので、もいではみたものの甘くないとのこと。試食してみたが、やはり甘みが足りない。諺では「桃栗3年、柿8年」と言うが、商品としての桃が得られるまでにはもっとたっぷり年月を要するらしい。代わりに立派な西瓜を買い、桃は9月上旬に美味しい桃を送ってもらうことにした。

15時に松本I.C.から中央道に入り、22分後に諏訪湖S.A.に駐車し、このサービス・エリア内の温泉に浸り、3日分の汗を洗い流す。温泉の湯で脚の筋肉がジンジンし、気持ちが良い。1時間後に再び車を発進。約2時間後に八王子I.C.に着き、中央道を降りて国道16号線に入り、桶川市の我が家には20時10分に帰り着いた。

帰宅後は例によって築比地氏とビールを飲み、夕食を食べながら話し込み、午前1時半頃に桶川を出て、築比地氏を川口市の自宅まで車で送り、今年の「這い松の仙人『タカネヒカゲ』」観察行は終わった。

以上

(おのぞら ひろあき 〒363 桶川市泉2-19-50~4-119)

.....

## セスジツユムシ♀の鳴き声を確認

柴田 直之

.....

筆者は、セスジツユムシの♀が鳴いているのを目撃、採集しているが、実際の観察例としては多くないと思われるので報告する。

埼玉県所沢市三ヶ島：1996年11月9日 1♀（採集）

当日、ササキリが鳴いているのを手づかみで採集しようとしたところ、逃げられてしまい、直後に同様の鳴き声を確認したので、ササキリだろうと思って声の主を捜すと、セスジツユムシ♀であった。

なお、筆者は、直翅目に興味を持ち始めたばかりで、鳴き声より、取りたいという欲の方が強い段階であるため、鳴き方のパターンは、はっきり覚えていない。少なくとも、声の質は、素人としては、ササキリと似て高温であり大きな声ではなかった。また付近に、♂の鳴き声は確認できなかったことを付記しておく

(しばた なおゆき 〒350-11 川越市藤倉390-8-101)

秩父のカミキリムシ

石蔵 拓

1994年から本格的に秩父産のカミキリムシを採集しております。これまで本誌へ107種を報告しておりますが、1996年までに新たに採集確認した24種を加えた、計131種についてまとめてみました。

1996年のTOPICS :

1. フタコブブリハナカミキリ, オオアオカミキリ, オニホソコバナカミキリの採集
2. ヨコヤマトラカミキリとアオカミキリを再び採集
3. キベリカタビロハナカミキリ多数発生

凡例

1. 学名及び種の配列は「日本産カミキリムシ検索図説」(1992年) 大林延夫, 佐藤正孝, 小島圭三編/東海大学出版会に従いました。
2. 族, 属名は所々記述を省略。
3. 筆者採集記録の引用及びその略記号  
'93年: 筆者既発表の本誌 (70) -1601-1602より 略記号“(A)”を付しました。  
'94年: 筆者既発表の本誌 (75) -1850-1852より “(B)”  
'95年: 筆者既発表の本誌 (77) -1994-1998より “(C)”
4. 筆者の目撃記録については, 略記号“FL”を付しました。
5. 採集者の記述ないものは全て筆者による採集。
6. 採集地の中津川林道とは秩父郡大滝村中津川林道の略。
7. 西山明(会員番号239)氏の同定及び確認には略記号“AN”を付しました。  
毎年, 西山氏には同定及び貴重な助言をいただき, 厚くお礼を申し上げます。

ホソカミキリムシ科 Family Disteniidae Lacordaire, 1869

1. ホソカミキリ *Distenia gracilis gracilis* (Blessig, 1872)  
中津川林道 21. VII. 1996, 1 ex., FL, 雨の日伐採木の裏に, しがみついていた。Light Trapによく来る。  
; 両神村大胡桃 VII. 1994 (B); 大滝村塩沢 VII. 1995 (C)

カミキリムシ科 Cerambycidae Latreille, 1804

2. ウスガミキリ *Megopis (Aegosoma) sinica sinica* (White, 1853)  
大滝村字中津川 8. VII. 1996, 1 ex., FL, 街灯; 中津川林道, VIII. 1995 (C)
3. ノギリカミキリ *Prionus insularis insularis* Motschulsky, 1857  
中津川林道 21. VII. 1996, 1 ex., FL, 車道に来ていて, 危うくひき殺す所だった。例年見られるがその頻度は少ない。; 中津川林道 VIII. 1995 (C) Light Trap
4. コバカミキリ *Psephactus remiger* Harold  
大滝村字中津川 21. VII. 1996, 1 ex., 街灯; 中津川林道 VII. 1995 (C)

クロカミキリ亜科 Subfamily Spondyliinae Serville, 1832

5. クカミキリ *Spondylis buprestoides* (Linnaeus, 1758)  
1996年確認できず。中津川ではあまり見ない。; 中津川林道 VII. 1995 (C)
6. ツマムクガミキリ *Cephalallus unicolor* (Gahan, 1906)  
1996年確認できず。; 筆者既発表の本誌 (77) -1994のツマムクガミキリ採集の記載を本誌にてツマムクガミキリへ訂正します。; 中津川林道 VIII. 1995 (C)

7. オマルクヒ<sup>°</sup>ヒラカミキリ *Asemum striatum* (Linnaeus, 1758)  
中津川林道 2. VI. 1996, 4 ex., FL, スギに釘を刺した格好で食いついている。例年普通に見られる。  
; 大滝村小倉沢 V. 1994 (B); 中津川林道 V. 1995 (C)
- ハナカミキリ亜科 Subfamily Lepturinae Latreille, 1804
8. フタコブ<sup>°</sup>ムシハカミキリ *Stenocorus caeruleipennis* (Bates, 1873)  
中津川林道 28. VII. 1996, 1 ex., なかなか秩父で採集できずにいた。午前中に花「ウツギ系」の根当たりに隠れていた。
9. モク<sup>°</sup>ムシハカミキリ *Toxotinus reini* (Heyden, 1879)  
中津川林道 2. VI. 1996, 1 ex., FL, 例年見られた。; 大滝村小倉沢 VI. 1994 (B); 中津川林道 V. 1995 (C)
10. キハ<sup>°</sup>リカヒ<sup>°</sup>ムシハカミキリ *Pachyta erebia* Bates, 1884  
中津川林道 27. VII. 1996, 4 ex., ; 28. VII. 1996, 4 ex., 花「ウツギ系」, 1996年は多数発生。上翅が黄濁色タイプ2ex., も含む。
11. カカ<sup>°</sup>ムシハカミキリ *Gaurotes (Paragaurotes) doris* Bates, 1884  
中津川林道, 11. V. 1996, 1 ex., FL, 例年花や伐採木で見られる。; 中津川林道 VI. 1994 (B); V. 1995 (C)
12. キハ<sup>°</sup>ネニセムシハカミキリ *Lemula deciplens* Bates, 1884  
1996年確認できず。; 大滝村小倉沢 V. 1994 (B); 中津川林道 V. 1995 (C)
13. ヒ<sup>°</sup>ツクニセムシハカミキリ *Lemula rufithorax* Pic, 1901  
1996年確認できず。; 両神山白井差 V. 1994 (B); 埼玉県動物誌未記録
14. ヒナリ<sup>°</sup>ムシハカミキリ *Dinoptera minuta* (Gebler, 1832)  
小鹿野町伊豆沢3. V. 1996, 1 ex., ; 大滝村中双里 VI. 1994 (B)
15. シラ<sup>°</sup>ムシハカミキリ *Pidonia (Pidonia) obscurior obscurior* Pic, 1901  
中津川林道 27. VII. 1996, 1 ex.,
16. カム<sup>°</sup>ムシハカミキリ *Pidonia (Pidonia) orientalis* Matsushita, 1933  
中津川林道 27. VII. 1996, 1 ex.,
17. カ<sup>°</sup>バ<sup>°</sup>ムシハカミキリ *Pidonia signifera* (Bates)  
中津川林道 27. VII. 1996, 1 ex., ; 中津川林道 VI. 1994 (B); V. 1995 (C)
18. オ<sup>°</sup>ムシハカミキリ *Pidonia grallatrix* (Bates)  
中津川林道 27. VII. 1996, 1 ex., ; 中津川林道 V. 1995 (C)
19. チャ<sup>°</sup>イ<sup>°</sup>ムシハカミキリ *Pidonia (Mumon) aegrota aegrota* (Bates, 1884)  
中津川林道 27. VII. 1996, 1 ex.,
20. フタ<sup>°</sup>ムシハカミキリ *Pidonia (Omphalodera) puziloi* (Solsky, 1873)  
中津川では未採集。; 両神山白井差 V. 1994 (B)
21. セ<sup>°</sup>ムシハカミキリ *Pidonia (Cryptopidonia) amentata amentata* (Bates, 1884)  
1996年確認できず。; 中津川林道 V. 1995 (C)
22. ニセ<sup>°</sup>コモン<sup>°</sup>ムシハカミキリ *Pidonia (Cryptopidonia) simillima* Ohbayashi et Hayashi, 1960  
1996年確認できず。; 中津川林道 VI. 1994 (C); 埼玉県動物誌未記録
23. チャ<sup>°</sup>ホ<sup>°</sup>ムシハカミキリ *Pseudalostema misella* (Bates, 1884)  
大滝村大山沢林道 13. VII. 1996, 3 ex., ; 中津川林道 21. VII. 1996, 3 ex., FL
24. シ<sup>°</sup>マ<sup>°</sup>ムシハカミキリ *Anoplocleromorpha excavata* (Bates, 1884)  
中津川林道 6. VII. 1996, 1 ex., 花「ウツギ系」; 中津川林道 VII. 1994 (B); VI. 1995 (C)
25. カ<sup>°</sup>ムシハカミキリ *Kanekoa azumensis* (Matsushita et Tamanuki, 1942)  
中津川林道 28. VII. 1996, 1 ex., 花「ウツギ系」 標高1700m以上
26. ムシ<sup>°</sup>ハカミキリ *Anoplocleromorpha cyanea* (Gebler, 1832)  
中津川林道 13. VII. 1996, 1 ex., ; 伐採木 28. VII. 1996, 1 ex., 花「ウツギ系」
27. キ<sup>°</sup>ツ<sup>°</sup>ムシハカミキリ *Corennys sericata* Bates, 1884  
中津川林道 27. VII. 1996, 3 ex., ; 28. VII. 1996, 3 ex., 花「ウツギ系」, 採集時は鮮やかな赤であったが、次第に色が褪せて黒くなっている。

28. パウカミキリ *Pachytodes comete* (Bates, 1884)  
中津川林道大若沢 13. VII. 1996, 1 ex., ; 中津川林道 VII. 1994 (B)
29. スハタマハカミキリ *Judolia bangi* (Pic, 1901)  
1996年確認できず。 ; 中津川林道 VII. 1995 (C)
30. ヒメハカミキリ *Brachyleptura pyrrha* (Bates, 1884)  
中津川林道鎌倉沢 16. VI. 1996, 2 ex., 花「ウツギ系」に5頭
31. ツヤゲハカミキリ *Anastrangalia scotodes* (Bates, 1873)  
中津川林道 27. VII. 1996, 2 ex., 花「ウツギ系」 ; 28. VII. 1996, 1 ex., 花「ウツギ系」
32. アハカミキリ *Corymbia succedanea* (Lewis, 1879)  
大滝村小倉沢 3. VIII. 1996, 1 ex., FL, 例年普通に見られる。 ; 中津川林道 VIII. 1995 (C)
33. オハカミキリ *Konoa granurata* (Bates, 1884)  
中津川林道 27. VII. 1996, 2 ex., ; 28. VII. 1996, 2 ex., 花「ウツギ系」
34. カハカミキリ *Leptura aetiops* Poda, 1761  
中津川林道 2. VI. 1996, 4 ex., FL, 花「ウツギ系」, 例年見られる。中津川林道 VI. 1995 (C)
35. ムネカハカミキリ *Leptura dimorpha* Bates, 1873  
中津川林道 16. VI. 1996, 1 ex., FL, 伐採木周辺 ; 埼玉県動物誌未記録 ; 花で採集の経験なし。小鹿野町坂本 VI. 1994 (B) 草で ; 中津川林道 VI. 1995 (C) ひこばえ
36. キンハカミキリ *Leptura doudecimguttata* Fabricius, 1801  
中津川林道 2. VI. 1996, 3 ex., 柵, コラの古い伐採木に来た。産卵は見れず。 ; 95年は多産。中津川林道 V. 1995 (C), 伐採木で
37. ヤツボシハカミキリ *Leptura mimica* Bates, 1884  
中津川林道 2. VI. 1996, 1 ex., FL, かなり古い伐採木で例年普通に見られる。 ; 中津川林道 V. 1995 (C)
38. ツマクハカミキリ *Leptura modiceotata* Pic, 1901  
大滝村大山沢林道 13. VII. 1996, 1 ex., 花「ウツギ系」
39. ヨツシハカミキリ *Leptura ochraceofasciata ochraceofasciata* (Motchulsky, 1861)  
中津川林道大若沢 13. VII. 1996, 1 ex., FL, 例年普通に見られる。 ; 中津川林道 VII. 1995 (C)
40. コヨツシハカミキリ *Leptura subtilis* Bates, 1884  
中津川林道 28. VII. 1996, 2♂♂, 花「ウツギ系」
41. ハネハカミキリ *Leptura latipennis* (Matsushita)  
中津川林道 2. VI. 1996, 1 ex., FL, 柵の伐採木で例年見られる。 ; 中津川林道 VI. 1995 (C), 古い伐採木に多数
42. フタシハカミキリ *Leptura vicaria* (Bates, 1884)  
中津川林道 27. VII. 1996, 1 ex., 花「ウツギ系」 ; 中津川林道 VII. 1995 (C)
43. オヨツシハカミキリ *Macroleptura regalis* (Bates, 1884)  
中津川林道 28. VII. 1996, 2 ex., FL, 花「ウツギ系」, 例年見られる。 ; 中津川林道 VII. 1995 (C)
44. ヒゲシハカミキリ *Japanostrangalia dentatipennis* (Pic, 1901)  
中津川林道大若沢 13. VII. 1996, 1 ex., 列の花, 例年見られる。 ; 中津川林道 VII. 1995 (C), 花「リョウウ」
45. ホトアハハカミキリ *Strangalomorpha tenuis aenescens* Bates, 1884  
中津川林道 27. VII. 1996, 2 ex., 花「ウツギ系」
46. コヤホリハカミキリ *Strangalia koyaensis* Matsushita, 1933  
中津川林道 27. VII. 1996, 1 ex., FL, 例年見られる。 ; 中津川林道 VII. 1994 (B), 花「ウツギ系」 ; VII. 1995 (C), 花「リョウウ」
47. ショコリハカミキリ *Mimostrangalia dulcis* (Bates, 1884)  
中津川林道 27. VII. 1996, 3 ex., 花「ウツギ系」, 標高1700m以上 ; 埼玉県動物誌未記録
48. ニフハカミキリ *Parastrangalia nymphula* (Bates, 1884)  
大滝村字中津川 2. VI. 1996, 1 ex., 花「ウツギ系」, 例年普通に見られる。 ; 中津川林道 VII. 1995 (C), 花「リョウウ」
49. ミヤマホリハカミキリ *Idiostrangalia contracta* (Bates, 1884)  
中津川林道 27. VII. 1996, 1 ex., AN, 花「ウツギ系」, 標高1700m以上

50. ハコネカミキリ *Idiostrangalia hakonensis* (Matsushita, 1933)  
中津川林道 21. VII. 1996, 1 ex., ; VII. 1994 (B); 埼玉県動物誌未記録
- ホソコバナカミキリ亜科 Subfamily Necydalinae Latreille, 1875
51. オホコバノ初ミキリ *Necydalis (Necydalis) gigantea gigantea* Kano, 1933  
中津川林道10. VIII. 1996, 2♂♂, AN, 花「ウキ」系, 標高1700m以上; 埼玉県初記録
- カミキリ亜科 Subfamily Cerambycinae Latreille, 1804
52. ミヤカミキリ *Massicus raddei* (Blessig, 1872)  
荒川村小野原10. VIII. 1996, 1 ex., FL, 街灯; 両神村大胡桃 VIII. 1995 (C), Light Trap
53. キダラミヤカミキリ *Aeolesthes (Pseudaolesthes) chrysothrix chrysothrix* (Bates, 1873)  
秩父郡横瀬町3. VIII. 1996, 1 ex., 早朝, 店の軒先で弱っていた。
54. オホコバノ初ミキリ *Dere thoracica* White, 1855  
筆者は中津川ではまだ見ていない。; 小鹿野町坂本 V. 1994 (B), ネムの伐採木
55. トヲホバノ初ミキリ *Thranus variegatus variegatus* Bates, 1873  
1996年は採集地に行かず。; 中津川林道 VII. 1994 (B); VII. 1995 (C); 埼玉県動物誌未記録
56. オホコバノ初ミキリ *Rosalia (Rosalia) batesi* Harold, 1877  
中津川林道王冠 6. VII. 1996, 3 ex., FL; 中津川林道 VII. 1994 (B); X. 1995 (C)
57. オホコバノ初ミキリ *Chloridolum (Chloridolum) thaliodes* Bates, 1884  
中津川林道 10. VIII. 1996, 2 ex., 前胸背板が青緑色1頭と銅緑色1頭。青緑色は彼等の独特の臭いがウキの花からしたので張り込んでいたら花から姿を見せた。銅緑色は5m先のウキの花で。
58. ミドリカミキリ *Chloridolum (Leontium) viride* (Thomson, 1864)  
中津川林道28. VII. 1996, 2 ex., FL, 花「ウキ」系, 標高1700m以上。普通に見られる。; 中津川林道 VI. 1994 (B); V. 1995 (C)。
59. シロカミキリ *Schwarzerium quadricollis* (Bates, 1884)  
中津川林道 10. VIII. 1996, 1 ex., 5m以上離れた谷に生えたウキ系の花で; 18. VIII. 1996, 1 ex., 私の背丈ほどのイタリの花で; 両神村大久保 VIII. 1993 (A), 花(不明), (高さ5m以上); 中津川林道 VII. 1994 (B), ウキ系5m付近の花をSWEEPINGで偶然
60. オホコバノ初ミキリ *Purpuricennus (Sternoplistes) spectabilis* Motchulsky, 1857  
中津川林道 2. VI. 1996, 1 ex., FL; V. 1995 (C); 大滝村小倉沢 VII. 1994 (B)
61. ベノカミキリ *Purpuricennus (Sternoplistes) temminckii* (Guerin-Meneville, 1844)  
中津川林道 2. VI. 1996, 1 ex., FL; V. 1995 (C); 両神村大胡桃 VII. 1993 (A)
62. ヒメスギカミキリ *Callidiellum rufipenne* (Motschulsky, 1860)  
大滝村塩沢11. V. 1996, 1 ex., FL, 普通に見られる。; 中津川林道 V. 1995 (C)
63. ヒメスギカミキリ *Semanotus bifasciatus bifasciatus* (Motschulsky, 1857)  
多数飛来していたヒメスギの貯木が撤去された。; 大滝村小倉沢 VI. 1994 (B), 早朝, 標高1600m以上; 埼玉県動物誌未記録
64. シロコバノ初ミキリ *Phymatodes (Phymatodes) testaceus* (Linnaeus, 1758)  
小鹿野町伊豆沢 3. V. 1996, 1 ex., FL, ケキの伐採木で見られる。; 大滝村小倉沢 VI. 1994 (B)
65. オホコバノ初ミキリ *Phymatodes (Poecilium) maaki* (Kraatz, 1873)  
1996年確認できず。; 大滝村小倉沢 V. 1994 (B); 中津川林道 V. 1995 (C)
- (トラカミキリ族) Tribe Clytini Mulsant, 1839
66. トヲホバノ初ミキリ *Xylotrechus chinensis* (Chevrolat, 1852)  
1996年は採集に行かず。; 両神村小沢口 VIII. 1993 (A); 両神村大字小森 VII. 1994 (B)
67. オホコバノ初ミキリ *Xylotrechus rufilius* Bates, 1884  
なかなか得難い種になりつつある。; 大滝村滝沢 VII. 1995 (C)
68. ウスイトヲホバノ初ミキリ *Xylotrechus cuneipennis* (Kraatz, 1879)  
中津川林道ガク沢 23. VI. 1996, 1 ex., FL, 例年普通に見られる。; 中津川林道 VII. 1994 (B); VI. 1995 (C)

69. ツマキトカミキリ *Xylotrechus clarinus* Bates, 1884  
中津川林道 23. VI. 1996, 1 ex., クワノの伐採木で; 29. VI. 1996, 2 ex.,
70. キシトカミキリ *Cyrtoclytus caproides caproides* (Bates, 1873)  
中津川林道 2. VI. 1996, 1 ex., FL, 例年普通に標高1700m以上まで広範囲に見られる。; 中津川林道 V. 1995 (C)
71. シラトカミキリ *Clytus melaenus* Bates, 1884  
中津川林道 2. VI. 1996, 1 ex., 例年見られる。; 中津川林道 V. 1995 (C)
72. キントカミキリ *Clytus auripilis* Bates, 1884  
中津川林道 2. VI. 1996, 3 ex., FL, 伐採木(特にケヤキ)で普通に見られる。; 中津川林道 V. 1995 (C), 95年は多産。
73. コヤマトカミキリ *Epiclytus yokoyamai* (Kano, 1933)  
中津川林道 8. VI. 1996, 1 ex., 13時すぎ頃曇りに愛車(メタルグレイ色)の屋根にいた。思わず手をつかむ。意外と鈍感のようです。気がつけば停めた車の上にカエデがあった。; 大滝村小倉沢 VI. 1994 (B), 午前11時すぎ頃ガードレールで日向ぼっこ中を手づかみ。
74. エグリトカミキリ *Chlorophorus japonicus* (Chevrolat, 1863)  
中津川林道 2. VI. 1996, 1 ex., ; V. 1995 (C), 例年標高1700m以上まで広範囲に見られる。
75. ホトカミキリ *Rhaphuma xenisca* (Bates, 1884)  
中津川林道 16. VI. 1996, 1 ex., FL; V. 1995 (C), 例年見られる。
76. ヒメトカミキリ *Rhaphuma diminuta diminuta* (Bates, 1874)  
中津川林道 2. VI. 1996, 1 ex., ; VII. 1995 (C), 95年は多産。
77. カボウトカミキリ *Hayashiclytus acutivittis* (Kraatz)  
1996年確認できず。; 中津川林道 VI. 1995 (C), 伐採木
78. キイトカミキリ *Grammographus notabilis notabilis* (Pascoe, 1862)  
中津川林道 16. VI. 1996, 30 ex., FL; VII. 1995 (C), 1996年は非常に多く発生。
79. トビゲトカミキリ *Demonus transilis* Bates, 1884  
中津川林道 2. VI. 1996, 1 ex., FL, 花「ウツギ」系; VII. 1995 (C)
80. シトカミキリ *Paracllytus excultus* Bates, 1884  
中津川林道 2. VI. 1996, 1 ex., FL; V. 1995 (C), 伐採木, 例年見られる。; 大滝村小倉沢 V. 1994 (B), 旧愛車(白色)の屋根で。
81. トカリハアネトカミキリ *Anaglyptus (Anaglyptus) niponensis* Bates, 1884  
1996年確認できず。; 中津川林道 VI. 1994 (B); VI. 1995 (C); 埼玉県動物誌未記録
- フトカミキリ亜科 Subfamily Lamiinae Latreille, 1825
82. シロヒコマカミキリ *Falsomesosella (Falsomesosella) gracilior* (Bates, 1884)  
大滝村字中津川 13. VII. 1996, 1 ex., 街灯; 埼玉県動物誌未記録
83. コマカミキリ *Mesosa (Mesosa) japonica* Bates, 1873  
中津川林道 2. VI. 1996, 2 ex., FL, 1996年は出が遅く, 少ない。; 中津川林道 V. 1995 (C)
84. カシコマカミキリ *Mesosa (Perimesosa) hirsuta* Bates  
中津川林道王冠 3. VIII. 1996, 1 ex., 例年見られる。; 中津川林道 VI. 1994 (B); VIII. 1995 (C)
85. ナコマカミキリ *Mesosa (Aphelocnemis) longipennis* Bates, 1873  
中津川林道 6. VII. 1996, 1 ex., FL, 例年見られる。; 中津川林道 VIII. 1994 (B); VIII. 1995 (C)
86. タシコマカミキリ *Mesosa (Aphelocnemis) senilis* Bates, 1884  
中津川林道グク沢 29. VI. 1996, 1 ex., 例年見られる。; 中津川林道 VI. 1994 (B); VII. 1995 (C)
87. シノクワカミキリ *Asaperda agapanthina* Bates, 1873  
中津川林道 2. VI. 1996, 1 ex., FL, 小鹿野町河原沢 VI. 1994 (B)
88. シロヒチカミキリ *Sybra (Sybrodiboma) subfasciata subfasciata* (Bates, 1884)  
大滝村奥秩父林道 4. VIII. 1996, 1 ex., 例年見られる。; 中津川林道 VII. 1994 (B); V. 1995 (C)
89. ヒメカシカミキリ *Pterolophia (Pterolophia) leiopodina* (Bates, 1873)  
中津川林道 28. VI. 1996, 1 ex., FL, 例年見られる。; 中津川林道 VI. 1994 (B); VI. 1995 (C)

90. フシヅキカミキリ *Pterolophia (Pterolophia) zonata* (Bates, 1873)  
中津川林道 23. VI. 1996, 1 ex., FL, 普通に見られる。; 中津川林道 VI. 1995 (C)
91. トリシロヒキカミキリ *Pterolophia (Pterolophia) caudata caudata* (Bates, 1873)  
1996年確認できず。; 中津川林道 VIII. 1994 (B); VIII. 1995 (C), Light Trap
92. アトモンサヒカミキリ *Pterolophia (Pterolophia) granulata* (Motschulsky, 1866)  
中津川林道 6. VII. 1996, 1 ex., FL; VII. 1994 (B); VII. 1995 (C)
93. カシヅキカミキリ *Pterolophia (Ale.) jugosa jugosa* (Bates, 1873)  
中津川林道 11. V. 1996, 1 ex., ; V. 1995 (C)
94. クサヒカミキリ *Mesosella simiola* Bates, 1884  
中津川林道 16. VI. 1996, 1 ex., FL; VI. 1995 (C)
95. ヒゲナカミキリ *Monochamus (Monochamus) grandis* Waterhouse, 1881  
大滝村字中津川 10. VIII. 1996, 1♂, 街灯, 石蔵里沙子(長女)採集; 中津川林道 VIII. 1995 (C),  
Light Trap
96. ヒメナカミキリ *Monochamus (Monochamus) subfasciatus subfasciatus* (Bates, 1873)  
中津川林道 29. VI. 1996, 1 ex., 暗緑色 type, 伐採木; 大滝村奥秩父林道 4. VIII. 1996, 1 ex., 黒色  
type, 伐採木; 中津川林道 VIII. 1995 (C)
97. コマダラカミキリ *Anoplophora malasiaca* (Thomson, 1865)  
秩父市野坂町 3. VIII. 1996, 1 ex., FL, コヒメの電撃殺虫器で死んでいた。; 両神村大胡桃 VIII. 1995 (C)  
夕刻
98. センバキカミキリ *Acalolepta luxuriosa luxuriosa* (Bates, 1873)  
1996年確認できず。; VII. 1995大滝村塩沢 (C), 工事用の灯, 午前2時頃
99. ヒメウツカミキリ *Acalolepta flaudatrix flaudatrix* (Bates, 1873)  
中津川林道 16. VI. 1996, 1 ex., 早朝又は夕刻に現れる。; 中津川林道 VII. 1994 (B); VII. 1995 (C)
100. ニヒメウツカミキリ *Acalolepta sejuncta sejuncta* (Bates, 1873)  
1996年確認できず。; 両神村大胡桃 VII. 1993 (A), 早朝
101. ヤハシカミキリ *Uraecha bimaculata bimaculata* Thomson, 1864  
1996年確認できず。; 中津川林道 IX. 1995 (C), 山桜の根本
102. ヒメシカミキリ *Psacotha hiralis hiralis* (Pascoe, 1857)  
1996年確認できず。; 両神村小沢口 IX. 1994 (B); 大滝村中津峡 IX. 1995 (C)
103. チャボヒゲナカミキリ *Xenicotela pardalina* (Bates, 1884)  
中津川林道塩沢 8. VI. 1996, 1 ex., ; 埼玉県動物誌未記録; 夕刻または曇天に材の小枝に静止し  
ている。; 中津川林道 VI. 1994 (B); VI. 1995 (C)
104. シロシカミキリ *Batocera lineolata* Chevrolat, 1852  
1996年確認できず。両神村東間庭 VI. 1994 (B), 秩父では珍品になりつつある。
105. ヒゲナカミキリ *Palimna liturata* (Bates, 1884)  
中津川林道 21. VII. 1996, 2 ex., 加アサの材, とても暑い快晴時に伐採木に飛来。; 中津川林道 VIII.  
1995 (C)
106. ヒメヒゲナカミキリ *Rhopaloscelis unifasciatus* Blessig, 1873  
中津川林道中津沢 8. VI. 1996, 1 ex., ; 中津川林道 VI. 1994 (B); VI. 1995 (B)
107. ナメノアラカミキリ *Rhopaloscelis maculatus* Bates, 1873  
1996年確認できず。; 中津川林道 VII. 1995 (C); 埼玉県動物誌未記録
108. トウシカミキリ *Mimectatina divaricata divaricata* (Bates, 1884)  
1996年確認できず。; 中津川林道 VIII. 1995 (C)
109. クロヒゲナカミキリ *Terinaea atrofusca* Bates, 1884  
1996年確認できず。; 大滝村小倉沢 VII. 1994 (C); 埼玉県初記録
110. シシカミキリ *Pogonocherus (Eupogonocherus) seminiveus* Bates, 1873  
中津川林道 11. V. 1996, 1 ex., FL, 1996年は早春に見られた。; VI. 1995 (C)
111. ホトヒゲナカミキリ *Acanthocinus griseus orientalis* Ohbayshai, 1939  
中津川林道 3. VIII. 1996, 1 ex., Light Trap, 20時すぎ
112. コマダラカミキリ *Leiopus stillatus* (Bates, 1884)

- 中津川林道 16. VI. 1996, 2 ex., FL, 16時すぎに又は曇りに伐採木に姿を見せる。; 中津川林道 VI. 1994 (B); V. 1995 (C)
113. トゲバカミキリ *Rondibilis saperdina* (Bates, 1884)  
中津川林道中津沢 3. VIII. 1996, 1 ex.; ; 中津川林道 VII. 1994 (B); VIII. 1995 (C)
114. カノアケカミキリ *exocentrus galloisi* Matsushita, 1933  
1996年確認できず。; 大滝村中津峡 25. VI. 1995 (C); 埼玉県動物誌未記録
115. 矢カノアケカミキリ *exocentrus fasciolatus* Bates, 1873  
1996年確認できず。; 大滝村滝沢-塩沢 15. VII. 1995 (C)
116. シホホコノマケカミキリ *Exocentrus guttulatus* Bates, 1873  
1996年確認できず。; 中津川林道 22. VII. 1995 (C); 埼玉県動物誌未記録
- (トホシカミキリ族) Tribe Saperdini Mulsant, 1839
117. ベノアケカミキリ *Saperda (Saperda) interrupta* Gebler, 1825  
中津川林道 2. VI. 1996, 1 ex., カマツの伐採木に13時すぎ飛来。; 埼玉県動物誌未記録
118. シカミキリ *Eutetrappa sedecimpunctata* (Motschulsky, 1860)  
1996年確認できず。; 中津川林道 VI. 1995 (C)
119. ヤツカミキリ *Eutetrappa ocelota* (Bates, 1873)  
中津川林道 16. VI. 1996, 1 ex., ウメコケが多い山桜の伐採木に産卵するのを目撃。最初に口で産卵場所を噛み開けて数分産卵する。中津川では例年見られる。; 中津川林道 VI. 1994 (B); VI. 1995 (C)
120. ハノアケカミキリ *Eutetrappa chrysochloris chrysochloris* (Bates, 1879)  
中津川林道 23. VI. 1996, 1 ex., 1996年は愛車(メタルグレイ色)の屋根に静止していた。中津川では例年見られる。; 中津川林道 VII. 1994 (B); VIII. 1995 (C)
121. チノアケカミキリ *Pareutetrappa eximia* (Bates, 1884)  
1996年確認できず。; 中津川林道 VIII. 1995 (C), 午後, 伐採木で
122. キノカミキリ *Menesia sulphurata* (Gebler, 1825)  
中津川林道 16. VI. 1996, 1 ex.; ; VI. 1994 (B); VII. 1995 (C), 夕刻にガガンボに似た上下運動をしながら飛ぶ。
123. オノアケカミキリ *Menesia flavotecta* Heyden, 1886  
1996年確認できず。; 中津川林道 VI. 1994 (B); VII. 1995 (C), 夕刻にガガンボに似た上下運動をしながら飛ぶ。
124. シホホコノカミキリ *Glenea (Glenea) relicta relicta* Pascoe, 1868  
中津川林道 16. VI. 1996, 1 ex., FL; 大滝村大血川 11. VIII. 1996, 1 ex., FL, 夕刻や曇りに見られる。; 中津川林道 VI. 1994 (B); VI. 1995 (C)
125. ヒメシノセリノコカミキリ *Eumecocera trivittata* (Breuning, 1947)  
中津川林道 29. VI. 1996, 1 ex., FL; 埼玉県動物誌未記録; 例年この時期の曇りに葉に静止。; 中津川林道 VI. 1994 (B), VII. 1995 (C)
126. チノセリノコカミキリ *Niponostenmostola niponensis niponensis* (Pic, 1901)  
1996年確認できず。; 中津川林道 VI. 1994 (B); VI. 1995 (C)
127. キノカミキリ *Phytoecia (Phytoecia) rufiventris* Gautier, 1870  
1996年確認できず。; 両神村大胡桃 VI. 1994 (B); 中津川林道 VI. 1995 (C)
128. ヨツボノカミキリ *Epiglenea comes comes* Bates, 1884  
大滝村滝沢 18. V. 1996, 10 ex., 4月採取の材から羽脱, 5/18現地解放。; 中津川林道ムシノ沢8. VI. 1996, 5 ex., FL, 例年見られる。; 中津川林道 VI. 1994 (B), 17. VI. 1995 (C)
129. ベノアケカミキリ *Nupserha marginella* (Bates, 1873)  
中津川林道 27. VII. 1996, 1 ex.; ; 両神村大胡桃 VI. 1994 (B)
130. ヒメシノコカミキリ *Oberea hebescens* Bates, 1873  
1996年確認できず。小鹿野町坂本; V. 1994 (B); 埼玉県動物誌未記録
131. シノコカミキリ *Oberea japonica* (Thunberg, 1787)  
1996年確認できず。; 大滝村中津峡 VII. 1995 (C)

.....

### 埼玉県内で採集した蛾

柴田 直之

.....

1996年6月に筆者埼玉県内で採集した蛾をまとめてみた。

1996年6月19日 大滝村浜平

|              |              |
|--------------|--------------|
| ニッコウシャチホコ 1♂ | シロスジシャチホコ 1♂ |
| ギンモンシャチホコ 1♀ | トラガ 1ex.     |
| ヒメトラガ 1♀     |              |

1996年6月19日 大滝村二瀬ダム付近

ツマジロシャチホコ 1♂

1996年6月19日 荒川村三峰口駅付近

|          |            |
|----------|------------|
| ヒメトラガ 1♀ | シロオビドクガ 1♀ |
|----------|------------|

1996年6月20日 大滝村中津川林道、標高1050m地点

|                |                   |
|----------------|-------------------|
| モンキシロシャチホコ 1♂  | シロスジシャチホコ 4♂      |
| トビマダラシャチホコ 1♂  | マエジロシャチホコ 1♂      |
| トビスジシャチホコ 1♀   | ニッコウシャチホコ 3♂      |
| タテスジシャチホコ 1♂1♀ | エグリシャチホコ 1♂       |
| シロテンシャチホコ 1♂1♀ | ギンモンシャチホコ 2♂      |
| トビモンシャチホコ 1♂   | オオナカグロモクメシャチホコ 1♀ |
| ハイイロシャチホコ 1♀   | ハネモンリンガ 1ex.      |
| アオケンモン 2exs.   | ヒメトラガ 1♂1♀        |
| クロテンケンモンズメ 1♀  |                   |

1996年9月24日 大滝村中津川林道、標高1200m地点

シロズジカラスヨトウ 1♂

1996年10月12日 大滝村滝川、標高500m地点

ヒメヤママユ 8♂

1996年10月16日 大滝村中津川林道、標高1200m地点

|              |              |
|--------------|--------------|
| ウスタビガ 2♀     | ヒメヤママユ 2♂    |
| ミドリケンモン 2♂   | ゴボウトガリヨトウ 1♂ |
| キエグリシャチホコ 1♂ |              |

本採集記録は、全て夜間灯火採集（発電機を使用、若しくは街灯等）による。

(しばた なおゆき 〒350-11 川越市藤倉390-8-101)

## 寄せ蛾記81号 目次

|  |           |
|--|-----------|
| 松本克巨：ラクダムシとキバネツノトンボの記録                               | 2205      |
| 橋本良一：マメハンミョウの記録                                      | 2206      |
| 橋本良一：浦和市内のアサギマダラの記録                                  | 2206      |
| 荒木 哲：本州のオオモンシロチョウ覚書                                  | 2207-2224 |
| 萩原 昇：アオマツムシは忍者修行中（続編）                                | 2225-2226 |
| 萩原 昇・玉木長寿：埼玉県秩父郡大滝村中津川の7月の蛾類                         | 2227-2228 |
| 萩原 昇・築比地秀夫・土橋秀行・柴田直之：<br>入川林道（東京大学農学部演習林）早春の蛾類（1996） | 2229-2232 |
| 萩原 昇・南部敏明：マレーゼ・トラップに入った蛾類                            | 2233      |
| 柴田直之：長野県にてヒメアケビコノハとクロモンシタバを採集                        | 2234      |
| 築比地秀夫：埼玉県南部地域の蛾類                                     | 2235-2241 |
| 星野正博：サカハチチョウの記録を含む狭山湖周辺の観察（続）                        | 2242      |
| 柴田直之：埼玉県内の甲虫の記録                                      | 2242      |
| 小野寺博昭：双六岳登山記（1996年）                                  | 2243-2246 |
| 柴田 直之：セスジツユムシ♀の鳴き声を確認                                | 2246      |
| 石蔵 拓：秩父のカミキリムシ                                       | 2247-2253 |
| 柴田直之：埼玉県内で採集した蛾                                      | 2254      |
| 会員名簿訂正・変更について  | 2255      |
| 正誤表  | 2255      |
| 会報・編集後記  | 2256      |

（埼玉昆虫談話会 1996年12月1日，52pp）